

平成27年度 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」

年次報告書

フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム



平成27年度 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」

フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム

年次報告書

学校法人津曲学園
鹿児島国際大学
産学官地域連携センターCOC推進室
International University of Kagoshima



鹿児島国際大学



鹿児島国際大学は、2012年度に公益財団法人大学基準協会による大学機関別認証評価を受け、『大学基準に適合している』と認定されました。認定期間は、7年間(2013年4月～2020年3月)となります。

平成27年度
「フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム」
年次報告書

目次

巻頭言

鹿児島国際大学 学長 津曲 貞利 1

あいさつ

鹿児島国際大学 産学官地域連携センター長 大久保 幸夫 3

I 事業概要

1 事業の概要 7
2 事業の目的 8
3 事業の内容 8
4 取組の運営組織・実施体制 10
5 取組の評価体制・評価方法 11

II 事業の実施状況概要

1 平成27年度事業実施計画の概要 15
2 事業の月別実施状況 15

III 活動報告

1 委員会の設置及び開催
(1) 地域人材育成委員会 19
(2) 教育プログラム開発委員会 21
(3) 委員会の開催 22

2 COC + 参加校としての取組
(1) 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)計画調書 39
(2) 鹿児島県と県内8大学の
「雇用創出と若者定着に関する協定」調印式 41
(3) 学卒者地元定着促進協議会 43
(4) COC+教育プログラム開発委員会 48
(5) キックオフシンポジウム 55
(6) 参考資料 57

3	COC 認定校としての取組	
(1)	産学官連携に関する協定書の締結	60
	西之表市・鹿児島相互信用金庫・南大隅町	
(2)	西之表市留学生モニターツアー	63
(3)	海外インターンシップ開拓調査（香港）	71
(4)	地（知）の拠点シンポジウム	75
(5)	南大隅町共同プロジェクト報告会・シンポジウム	76
(6)	鹿屋市シンポジウム	77
4	外部評価委員会 評価結果	78

IV 資料

◇	産学官地域連携センターの取組・新聞記事・資料等	83
	・喜入旧麓地区景観形成重点地区指定取組	
	・第36回谷山ふるさと祭踊り連参加	
	・第30回国民文化祭・かごしま2015	
	・大和村地域振興事業	
	・ふるさと水土里の探検隊	
	・阿久根市地域活性化プロジェクト	
	・インターンシップ成果報告会	
	・新聞記事等	

巻頭言



鹿児島国際大学 学長 津 曲 貞 利

人口減少と少子高齢化が同時並行で進行する地方における大学経営は年々厳しさを増すばかりであるが、それは同じ宿命を共有する地方自治体あるいは地域社会にも当てはまることである。

本学は平成25年度よりスタートした「自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援すること¹」を目的とする COC (Center Of Community) 事業を、地域における知のストック機能であり且つ地域を支える人材育成の場でもある地方大学の今日的在り方を検証する絶好の機会と捉え、初年度から果敢にエントリーしたが、カリキュラムへの取り込みや全学的な支援体制の構築、自治体との連携などハードルが高いうえに、同様の問題意識を持つ地域や大学も数多く、二年連続して採択を逃してしまった。

「やはり地方私立大学には無理なプロジェクトなのか」と半ば諦めかけていたところ、平成27年度は「地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援する²」COC+という新たな枠組みとなり、鹿児島大学を中心に県下8大学、鹿児島県、企業等14団体が参加する『食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム』として申請を行い、無事採択の運びとなった。また、併せて本学が単独で申請した「フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム」も COC 事業として採択され、漸く3年目にして悲願達成となった。

地方における人口減少は18歳から22歳にかけて際立っており、就労人口のみならず次世代を産み育てる年齢層の著しい欠落は、地方に更なる悪循環をもたらしている。18歳までの教育カリキュラムが、教科別・知識重視・全国仕様に

¹ 文部科学省「平成25年度「地（知）の拠点整備事業」パンフレットについて」
< http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/1346066.htm >

² 文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」
< http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/ >

偏り過ぎていることによって、地域における産業振興や福祉・医療、エネルギー・環境などへの関心や問題意識を持たせ辛い現状の中で、地域への愛着を持ち、地域課題に挑戦する若者を育てるためには、教室の中より地域を「見える化」するフィールドワークの方が効果的な場合もある。「現場」ならではの臨場感によって彼らの社会参画スイッチをONにしようというこの取り組みはまだ緒に着いたばかりであるが、地域に存在する地方私立大学ならではのプログラムに育つことを切に願っている。

あいさつ



産学官地域連携センター
センター長・副学長 大久保 幸 夫

平成22年度の文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」とそれに続く平成24年度からの「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」が終わったのが、平成27年3月、ちょうど1年前になります。これらの補助金事業から本学は、地域に根差し産官学と連携した教育の重要性を再認識し、今年度4月に「産学官地域連携センター」を設立しました。そこでは、地方自治体や民間企業との連携協定、地方自治体・民間企業・地域及び他大学と連携した教育活動の推進、高大連携の推進、大学地域コンソーシアムでの活動、生涯学習の推進、地域総合研究所との協働などを行っています。一方、プロジェクト室（プロジェクト室は平成27年3月で閉鎖）で行っていたインターンシップ事業は、国内インターンシップが就職キャリアセンターに、海外インターンシップが企画・国際課に移管され、昨年度までの補助金事業を継承する体制が作り上げられました。

期を同じくして、文部科学省から「大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる『ひと』の地方への集積を目的とし」た「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」が公募されました。本学は、鹿児島大学主導のCOC+に参加するとともに、当時鹿児島では鹿児島大学だけが認定されていた「地（知）の拠点大学」の取得もめざし、本学独自の地方創生のための人材育成プログラムを作成しエントリーしました。それらの計画が認められ、本学は鹿児島大学のCOC+参加大学の一つとして活動しつつ、COC大学としても独自のプログラム「フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム」を開始することになった次第です。

平成18年設立された地域創生学科は、地方創生を先取りするような学科でしたが、平成23年3月に経営学科に吸収改組されました。設立当時は、地域創生

という言葉自体馴染みが薄く、そのコンセプトは魅力的ではありましたが、広すぎて高校生には掴みどころがなかったのかもしれませんが、しかし、今や地方創生は国の重要課題に取り上げられ、それなくしては日本がなくなるとまで言われるようになりました。地域創生学科は、その精神と得られた教訓を活かし、就業力育成から続く地方創生推進事業、COC+へとつながり、「地（知）の拠点大学」として生まれ変わったと思っています。本学は、これから今まで以上に本腰を入れて鹿児島地方創生に取り組むこととなります。

地域に出て、地域に学び、地域の皆様と協働して地域の課題に取り組む、そして地域に愛着を持ち将来鹿児島で活躍する有意な人材を育成・輩出することを目標にこの事業を続けていきたいと思っています。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます、私のごあいさつとさせていただきます。



I 事業概要

I 事業概要

1 事業の概要

文部科学省は『平成27年度から、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」（文科省 HP より）』を公募した。

鹿児島県からは、鹿児島大学が中心（COC+大学）となり、本学を含む県内7校（COC+参加大学）、鹿児島県、企業等14団体が参加して、『食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム』を申請し、採択された。

本学は、COC+に参加すると同時に、地方創生を一層推進するための全学的なカリキュラム改革案を提出し、鹿児島大学に続いて県内では二校目となる「地（知）の拠点（COC）大学」に認定された。

以下、本学のCOC事業について概要を説明する。

COC+大学の設定した目的に加えて、本学が独自に設定した目的は次のとおり。

- (1) 本学独自の事業協働地域と事業協働機関を設定し地域課題の解決に取り組む。
- (2) 地域課題解決のために必要とされる人材育成を行う。
- (3) 地域志向の学生を増やし地元就職率を上げる。
- (4) 事業協働地域の一つの課題である「国際化」に対応できる人材を育成する。
- (5) 事業協働機関と協力して地元魅力的な雇用を創出し学生・地域のニーズに応える。

これらの目的を達成するために、「フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム」という名の事業を設定。本事業の事業協働機関は、鹿児島市、西之表市、阿久根市、南大隅町、大島郡大和村、かごしま市商工会、鹿児島相互信用金庫、鹿児島興業信用組合。

事業協働機関の役員等、鹿児島大学の責任者、本学の学長、本学の教職員を構成員とする「地域人材育成委員会」を設置し、「地域の課題解決」と「地域が求める人材育成」等について協議する。その決定を受けて、「教育プログラム開発委員会（委員は事業協働機関の役員等及び本学の関係教職員）」が具体的な教育プログラムの構築や実施計画の策定を行う。

事業協働地域の課題「地域経済の再生、福祉・介護・育児、国際化」に取り組み、「社会性・国際性があり、チームの中で仲間と協調して主体的に仕事ができるコミュニケーション能力の高い人材」を養成するために「地域人材育成プログラム」と「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」を立ち上げる。

学生たちが「地域志向科目」、「地域人材育成科目」、「地域志向演習」、フィールドワーク、インターンシップなどを通して、地元鹿児島県の課題に向き合い、専門的・実践的にアプローチし、卒業後は地元の企業等に就職して地域に貢献することを目指す。平成26年度現在71.3%の県内就職率を事業最終年度の平成31年度には83.0%に引き上げ、鹿児島の地方創生に寄与することが数値目標である。

2 事業の目的

本補助事業の全体の目的は、「地域人材育成プログラム」と「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」を通して事業協働地域の課題の解決に取り組み、地域が求める人材を育成して、学生の地元就職率を上げることである。

平成28年度から新カリキュラムにおいて両教育プログラムを実施し、授業や演習におけるフィールドワークの充実・発展を図り、地域志向の学生を増やす。さらに、事業協働機関と協力して魅力的な雇用を創出し学生・地域のニーズに応えることにより、事業協働地域における就職率の改善を図り地方創生に資することが、本補助事業の目的である。

3 事業の内容

本事業は、地元就職率の向上・雇用創出について、地域に資する人材育成のための教育カリキュラム改革の一層の充実・発展を目指す補助事業であり、内容は以下のとおりである。

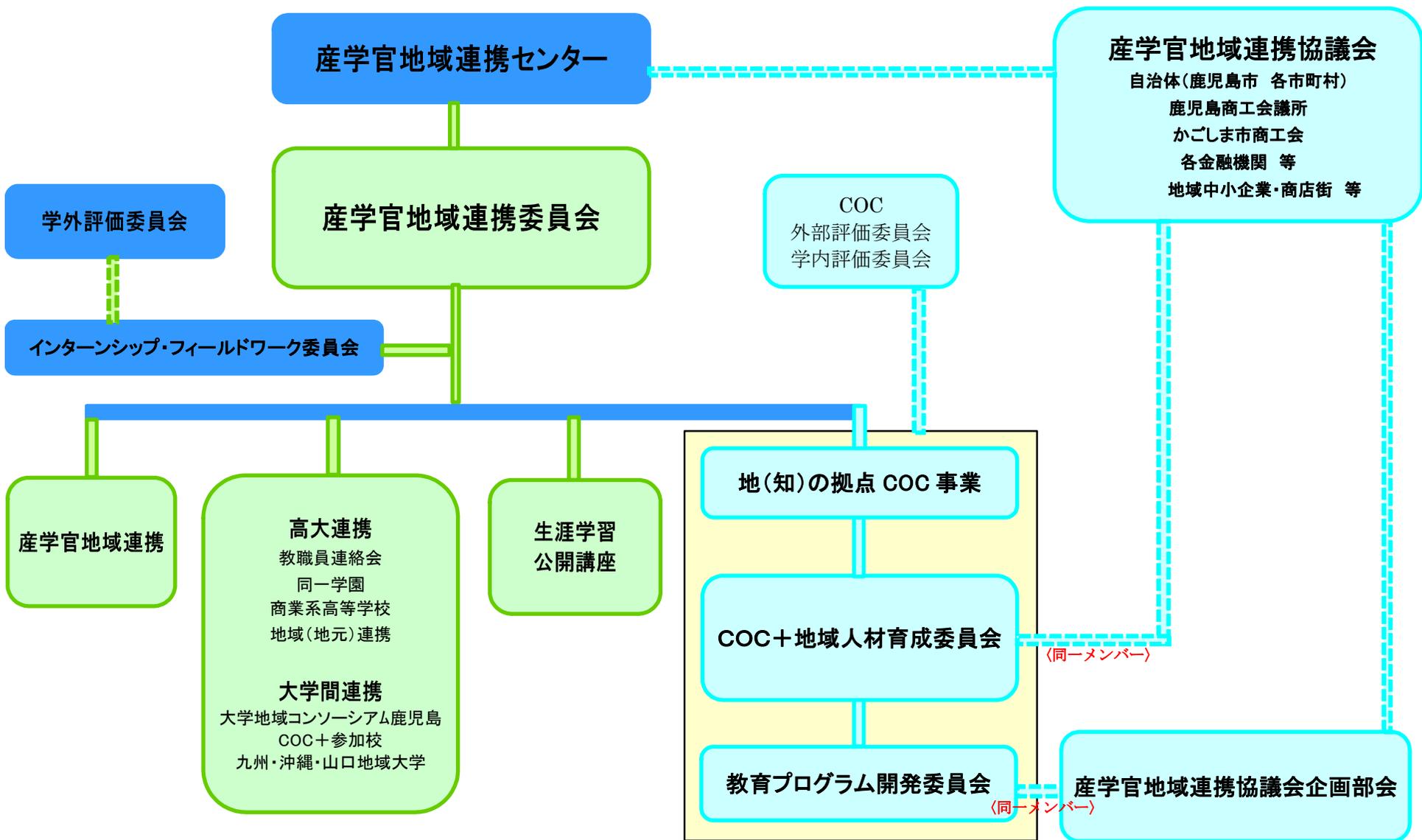
- ① COC+事業の円滑な推進のために、産学官地域連携センター内に設置したCOC推進室にてCOC+関連事務を実施する。
 - ・COC+推進副コーディネーター、事務補助員を継続雇用して産学官地域連携センターとの連絡・調整も行う。
 - ・COC+大学と連絡を密にして事業全体の進捗状況を把握する。また、事業協働機関と連絡・調整を行い地域課題やニーズを把握し、取組事業に反映させる。

- ②事業協働地域の協議・意思決定機関として事業協働機関の代表者等を委員とする「地域人材育成委員会」や運営機関の「教育プログラム開発委員会」を開催する。
- ・委員会を実施し、委員長である学長の下で事業協働地域の課題・ニーズを検討し、具体的な課題や事業協働機関の役割分担に関する基本方針や、地域が求める人材像を確定し、必要な能力を決定する。
 - ・「教育プログラム開発委員会」を実施して「地域人材育成委員会」で決定した教育方針に沿って教育プログラムの開発や意見交換等を行う。
- ③教育プログラム科目の施行
- ・地域課題の解決に必要な能力を獲得するために「地域人材育成プログラム」、また、英語を使って地域に貢献したい学生のために「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」を開講し、学生が混乱なく履修できるよう教育環境を整備充実する。
 - ・本プログラムを修了した学生に対して修了証を発行し、修了証が地域での就職に役立つように地域の認知度の向上を図る。
- ④事業協働機関と連携して既存事業の経営安定と鹿児島県の観光や貿易の分野等で新規事業開拓のための支援を行い、雇用拡大を促進する。
- ・他県のCOC+大学や関係機関の視察により、新規事業の開拓や雇用拡大について学ぶ。事業協働地域の企業等と現況等の摺合せを行い、新規採用が生じた際に本学の学生が採用されるように良好な関係を構築する。また、地方公共団体等との協定書も作成する。
 - ・国内外インターンシップ・フィールドワークの開拓及び実施を行い、学生への地元就職意識を涵養させ雇用創出に結び付ける。
- ⑤ COC+事業専用のホームページを開設する。取組と成果を逐次報告・公表し、事業協働機関とは常に情報の共有化を図る。
- ⑥ Web キャリア・ポートフォリオを活用し、学生の振り返り作業によるPDCA活動を実施する。
- ・取組事業の改善や学生への指導・助言に役立てるため、Webキャリア・ポートフォリオに記録された内容を教職員が共有化する。
- ⑦学内評価委員会と学外評価委員会を開催する。
- ⑨地域や事業協働機関などへの報告の場として事業報告会を開催する。
- ⑩報告書の作成と配布。

これらを通じて、選定取組を更に充実・発展させ、鹿児島国際大学における地元就職率の向上と鹿児島県内における雇用創出を目指す人材養成機能の強化を図ることが、本事業の内容である。

4 取組の運営組織・実施体制

産学官地域連携センター・地(知)の拠点COC事業体制図



5 取組の評価体制・評価方法

(1) 評価体制

外部評価を実施し、結果を地域人材育成委員会及び教育プログラム開発委員会、産学官地域連携委員会、教授会、大学評議会に報告する。

《外部評価》

・外部評価委員会：鹿児島大学、企業の経営者を委員とする（表1）。

【表1】外部評価委員

氏名	所属・職名
宮廻甫允	鹿児島大学 名誉教授
岩元修士	株式会社山形屋 代表取締役社長
門田晶子	湧上印刷株式会社 代表取締役社長

(2) 評価方法

産学官地域連携センター COC 推進室により作成された年次報告書を基に、事務担当からのヒアリングや取組項目別の自己評価（取組内容、成果と課題、自己判定、理由）の結果をふまえ、評価する。

(3) 項目別評価（2項目）

当該事業年度における「運営組織・実施体制」「事業活動状況」の2項目について、その取組み内容が成果をあげているかという観点から以下の5段階（5点満点）による評価と理由を付す。

【評点】

- 5点「十分評価できる」
- 4点「評価できる」
- 3点「どちらでもない」
- 2点「あまり評価できない」
- 1点「まったく評価できない」

(4) 全体評価

当該事業年度における事業全体の取組みについて、取組み内容が成果をあげているかという観点から以下の5段階（5点満点）による評価と理由を付す。

【評点】

- 5点「十分評価できる」
- 4点「評価できる」
- 3点「どちらでもない」
- 2点「あまり評価できない」
- 1点「まったく評価できない」

鹿児島国際大学 事業評価シート①,②(取組項目別)

[平成27年度]

【自己評価】

1. 取組項目					
2. 取組内容					
3. 成果と課題	2. 取組内容を踏まえ、該当年度の成果と次年度への展望(課題・改善策等)を記入				
評点	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2. あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理由					

【外部評価委員会評価】

評点	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2. あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理由					



Ⅱ 事業の実施状況概要

II 事業の実施状況概要

1 平成27年度事業実施計画の概要

- (1) 実施体制
 - 産学官地域連携センターで COC+関連事務開始
 - COC+推進副コーディネーター雇用・業務補助員雇用
 - 協議の場として COC+地域人材育成委員会（仮称）、実施委員会として教育プログラム開発委員会（仮称）を設置・開催
 - 学内・学外評価委員会設置、他県視察
- (2) 教育新カリキュラム全学生選択必修
 - 平成28年度実施予定新カリキュラムに地域志向科目を設置
 - 地域志向科目のシラバス作成、履修モデル構築
 - 国内外インターンシップ・フィールドワーク開拓と実施
 - 新規海外インターンシップ先「香港」開拓を含む
 - Web キャリア・ポートフォリオを活用し学生の PDCA 活動実施
- (3) 情報公開、成果普及
 - ホームページによる取組と成果の公表・成果発表会開催、報告書の作成
- (4) 評価
 - 学内評価委員会、学外評価委員会による評価
- (5) 協定
 - 地方公共団体と数値目標等について協議協定書作成

2 事業の月別実施状況

11月	<ul style="list-style-type: none"> ●会議 産学官地域連携センター会議（2日、9日、16日、30日） T O B O 会香港開拓調査に係る説明会（18日） ●包括連携協定 西之表市との包括連携協定締結（18日） ●打合せ 鹿児島市との連携打合せ（17日） 鹿児島相互信用金庫副部長来学・香港開拓調査について（25日） ●イベント等 COC 推進室設置・開所式（17日） ふるさと水土里の探検隊地区情報聞き取り及び現地調査（24日）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ●会議 産学官地域連携センター会議（7日） 産学官地域連携委員会（8日） 「地域人材育成委員会」・「教育プログラム開発委員会」合同委員会（21日） 学卒者地元定着促進協議会（21日：鹿児島大学）

12月	<ul style="list-style-type: none"> ●打合せ 南大隅町副町長来学（2日） 日置市市長訪問「産学官地域連携打合せ」（7日） ●イベント等 ふるさと水土里の探検隊第1回探検隊（5日） 「雇用創出と若者定着に関する協定」調印式（14日：鹿児島大学） ●海外出張 香港インターンシップ受入新規企業開拓調査（3日～6日）
1月	<ul style="list-style-type: none"> ●会議 COC+コーディネーター会議（8日） 産学官地域連携センター会議（18日） ●打合せ 西之表市観光交流係長他来学（7日） 始良市企画部次長他来学（12日） 鹿児島商工会議所事務局長他来学（19日） 鹿児島大学 COC+コーディネーター来学（19日） 鹿児島大学 COC 特任教授来学（29日） ●イベント等 ふるさと水土里の探検隊第2回探検隊
2月	<ul style="list-style-type: none"> ●会議 産学官地域連携センター会議（1日、8日、15日、22日） 鹿児島大学 COC+事業協働機関 実務担当者会議（15日） 教育プログラム開発委員会（26日） ●包括連携協定 南大隅町との包括連携に関する協定調印式・共同プロジェクト報告会（20日） ●打合せ 地(知)の拠点（COC）シンポジウム・パネラー事前打合せ（4日） ●イベント等 地(知)の拠点（COC）シンポジウム（4日） ●国内出張 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業2015 in 秋田（6日） COC 長岡大学視察（新潟）（16日、17日） 全国ネットワーク化事業 平成27年度 COC/COC+全国シンポジウム（高知）（27日、28日）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ●会議 産学官地域連携センター会議（1日、7日、28日） 外部評価委員会（19日） ●イベント等 鹿屋市シンポジウム（2日） COC+「食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム」キックオフシンポジウム（7日） 西之表市・留学生を活用したモニターツアー実施（10日～13日） ●国内出張 COC+シンポジウム（青森）（11日～12日） 大学教育改革フォーラム in 東海2016（名古屋）（12日～13日） ●国外出張 新規海外インターンシップ先（香港）開拓調査（13日～16日）



Ⅲ 活動報告

Ⅲ 活動報告

1 委員会の設置及び開催

鹿児島大学と県内7大学が連携して取り組む地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）、および本学が独自に取り組むCOC認定事業の推進のために、事業方針の審議・決定機関として「地域人材育成委員会」を設置する。本委員会では、地域課題やニーズの検討、地域が求める人材像の検討、地域人材育成のための教育プログラム策定方針などについて審議し、決定する。「地域人材育成委員会」の子委員会として「教育プログラム開発委員会」を設置し、親委員会の方針決定を受けて、「教育プログラム開発委員会」では具体的な教育プログラムの開発にあたる。

（1）地域人材育成委員会

鹿児島国際大学 「地域人材育成委員会」 設置要項

（設置）

第1条 本学に、文部科学省が行う「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」を推進するため、地域人材育成委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）

第2条 委員会は、鹿児島大学（COC+大学）と県内7大学等（COC+参加校）が連携し、地元就職率のアップを図り、地域のニーズに応える人材を育成するため、学卒者の地元定着促進に向けた教育改革を推進するとともに、本学の事業協働地域での課題解決に取り組み、地域が求める人材を育成し、学生の地元就職率を向上させるため、COC認定校として「フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム」事業に取り組むことを目的とする。

（構成）

第3条 委員会は、学長が委員長となり、委員会を招集し、その議長となる。

2 委員会に副委員長を置き、副学長・産学官地域連携センター長をもって充てる。

3 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

4 委員会は、別表に掲げる構成員を委員とする。ただし、必要に応じて委員以外の者を出席させることができる。

（審議事項）

第4条 委員会は次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) COC +参加校としての取組に関する事項

(2) COC 認定校としての取組に関する事項

- ① 事業協働地域の具体的な課題の検証・分析及び課題解決に関する事項
- ② 地域が求める人材の育成及び学生の地元就職率の向上に関する事項
- ③ 教育プログラム開発に関する事項
- ④ その他、委員会が必要と認める事項

(3) 事業計画及び予算に関する事項

(4) 事業報告及び決算に関する事項

(教育プログラム開発委員会)

第5条 COC 事業における教育プログラムの開発・実施に関わる事項を審議するために教育プログラム開発委員会を置き、要項は別に定める。

(外部評価委員)

第6条 委員会に外部評価委員を置く。

2 外部評価委員は学長が委嘱し、当該年度の委員会が所管する事業について評価を行い、委員会に報告する。

(委員会の努力義務)

第7条 委員会は、前条第2項の報告を受け、次年度の事業展開に反映させるよう努めなければならない。

(任期)

第8条 委員及び外部評価委員の任期は、平成32年3月31日までとする。

(委員会事務)

第9条 委員会の事務については、産学官地域連携センター COC 推進室が担当する。

(要項の改廃)

第10条 この要項の改廃は、委員会の審議を経て、学長の承認を得なければならない。

附 則

この要項は、平成27年12月21日から施行する。

(別表)

地域人材育成委員会構成員

	所属	職名
1	鹿児島国際大学	学長
2	鹿児島国際大学	副学長・産学官地域連携センター長
3	鹿児島国際大学	副学長・学生総合支援センター長
4	鹿児島国際大学	事務局長
5	鹿児島大学	学長補佐・教授・産学官連携推進センター長
6	鹿児島市	副市長
7	阿久根市	副市長
8	西之表市	副市長
9	大島郡大和村	村長
10	南大隅町	副町長
11	かごしま市商工会	会長
12	鹿児島相互信用金庫	理事長
13	鹿児島興業信用組合	理事長

(2) 教育プログラム開発委員会

鹿児島国際大学 「教育プログラム開発委員会」 設置要項

(趣旨)

第1条 この要項は、鹿児島国際大学「地域人材育成委員会」設置要項第5条に基づき、鹿児島国際大学「教育プログラム開発委員会」(以下「委員会」という。)の管理運営について定めるものである。

(目的)

第2条 委員会は、「地域人材育成委員会」の審議を踏まえ、事業協働機関と連携して、地域の課題解決のために必要とされる人材の育成や、地域での事業の創出による雇用拡大、地元就職率の向上など、地方創生に資する教育プログラムを開発することを目的とする。

(構成)

第3条 委員会は、産学官地域連携センター長が委員長となり、委員会を招集し、その議長となる。

2 委員会は、別表に掲げる構成員を委員とする。ただし、必要に応じて委員以外の者を出席させることができる。

(審議事項)

第4条 委員会は次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 教育プログラムの開発に関する事項

- ① 地域人材育成プログラムに関すること
- ② 国際ビジネスとグローバル英語プログラムに関すること
- ③ 海外インターンシップの開拓に関すること

(2) 学生の地元就職率向上の取組に関する事項

- ④ 県内インターンシップの発展・充実に関すること
- ⑤ 事業協働機関と連携した事業の創出による雇用拡大に関すること

(3) その他教育プログラムの開発及び学生の地元就職率の向上に関する事項

(任期)

第5条 委員会の委員の任期は、平成32年3月31日までとする。

(委員会事務)

第6条 委員会の事務については、産学官地域連携センター COC 推進室が担当する。

(要項の改廃)

第7条 この要項の改廃は、委員会及び地域人材育成委員会の審議を経て、学長の承認を得なければならない。

附 則

この要項は、平成27年12月21日から施行する。

(別表)

教育プログラム開発委員会構成員

	所属	職名
1	鹿児島国際大学	副学長・産学官地域連携センター長
2	鹿児島国際大学	副学長・学生総合支援センター長
3	鹿児島国際大学	経済学部教授、又は准教授
4	鹿児島国際大学	国際文化学部教授、又は准教授
5	鹿児島国際大学	福祉社会学部教授、又は准教授
6	鹿児島国際大学	事務局長
7	鹿児島国際大学	教務部長
8	鹿児島国際大学	研究教育開発センター長
9	鹿児島国際大学	地域総合研究所長
10	鹿児島市	政策企画課長
11	阿久根市	企画調整課長
12	西之表市	経済観光課長
13	大島郡大和村	総務企画課長
14	南大隅町	総務課長
15	かごしま市商工会	広域担当経営指導員
16	鹿児島相互信用金庫	営業開発部長
17	鹿児島興業信用組合	総務部長

(3) 委員会の開催

・第1回 合同委員会

日時：平成27年12月21日（月） 16：30～18：30

場所：鹿児島サンロイヤルホテル 3階 杉の間

出席：

(地域人材育成委員会委員)

鹿児島市 副市長 松木園富雄

阿久根市 副市長 寺地正吉

西之表市 副市長 坂元茂昭

大島郡大和村 村長 伊集院幼

南大隅町 副町長 白川順二

かごしま市商工会 会長 内道雄

鹿児島国際大学 学長 津曲貞利

- 〃 副学長・産学官地域連携センター長 大久保幸夫
- 〃 副学長・学生総合支援センター長 飯田敏博
- 〃 事務局長 岡田和憲
- 〃 教務部長 小林潤司
- 〃 研究教育開発センター長 飯田伸二
- 〃 地域総合研究所長 高橋信行

(委員代理)

鹿児島大学 産学官連携推進センター「COC+」推進部門
教授 井上佳朗

鹿児島相互信用金庫 専務理事 汾陽俊一
鹿児島興業信用組合 常務理事 鞆脇賢一

(教育プログラム開発委員会委員)

鹿児島市 政策企画課長 池田哲也
阿久根市 企画調整課長 山元正彦
西之表市 経済観光課長 松元明和
大島郡大和村 総務企画課長 郁島武正
南大隅町 総務課長 石畑博
かごしま市商工会 広域担当経営指導員 武田清孝
鹿児島相互信用金庫 理事・営業開発部長 梶原隆夫
鹿児島興業信用組合 理事・総務部長 鮫島俊三

議題：

- 第1号議案 地域人材育成委員会および教育プログラム開発委員会の設置要項（案）について
- 第2号議案 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業の概要について
- 第3号議案 平成27年度事業計画・予算について
- 第4号議案 次年度 COC 教育プログラムについて

(会議要旨)

学長よりまず出席者に対する謝辞の後、COC事業の説明及び、事業推進に向けた協力要請があった。

事務局から出席者を紹介の後、各委員会の代表者1名に津曲学長より委嘱状交付を行った。（地域人材育成委員会から鹿児島市の松木園副市長、教育プログラム開発委員会から鹿児島相互信用金庫の梶原理事）

議長選出については、事務局の説明に基づき、津曲学長を議長とするこ

とで、全員異議なく承認された。

- ・事務局より、「地域人材育成委員会」・「教育プログラム開発委員会」設置要項（案）について説明。

両委員会設置要項第3条の委員会構成員は充て職という解釈で良いかとの質問があり、迫田次長よりその解釈で良いと回答。また、「地域人材育成委員会」設置要項の第5条のCOC事業における教育プログラムの開発・実施に関わる事項とはCOC+に係る内容も含まれるのかという質問があり、迫田次長よりCOC+は含めないと回答。これに対し、津曲学長が「地域人材育成委員会」設置要項の第4条にCOC+の記載があることについて大久保副学長に説明を求めた。本学の独立したCOC事業に係る委員会である限り、主たるものは本学のCOCについてであるが、本学のCOCと鹿児島大学を中心としたCOC+は同じ目的であるため、COC+に係る内容も必要に応じて審議すると説明があった。

審議の結果、「地域人材育成委員会」および「教育プログラム開発委員会」の設置要項（案）は承認された。

- ・大久保副学長より本学のCOC認定事業について、また両委員会の役割について説明。

鹿児島市の松木園副市長より、地域人材育成委員会から産学官地域連携協議会へ移行するタイミングはいつ頃か、またどの程度の期間になる見込みか、との質問があった。これに対し、大久保副学長より5年後のCOC事業終了後、名称だけを変更して半永久的に続ける考えがあると説明。また、迫田次長より「平成32年4月1日より移行する計画である」と補足説明があった。次に大和村の伊集院村長より離島でのフィールドワークに関するコストシェアについて議会を経て予算に計上してある旨発言があった。津曲学長より学生の交通費等COCの補助金で支出することができないものについて支援をお願いしたいとの依頼があった。大久保副学長より、財政的支援以外にも建物の無償貸与、人員の派遣等もコストシェアと考えているとの補足説明がなされた。

鹿児島大学の井上委員（代理）より「鹿児島国際大学が既に独自の事業を行っており、そこから展開させていく様を見て力強い印象を受けた。各大学が独自の取り組みをして県全土を網羅することが、鹿児島の地方創生に役立つと考える。鹿児島大学も頑張らなければならないと感じた。」との発言があった。これに対し津曲学長より「フィールドワークを重視した地道な取り組みで、学生が地元に着愛を持って卒業後帰郷した例もある。本学は地域から学生を預かっているという考えであり、地域の中で活躍する人材になっていくことは喜ばしいことである。」など本学の方針等について

発言があった。

続いて寄付講座にかかるコストについての質問があり、津曲学長より一概には言えないが、数十万～数百万で考えていると回答。協力要請がなされた。付け加えて大久保副学長より、来年度1講座開講予定であるが詳細はこれから詰める、本学の教養特講で学生向けに15コマ授業の時間を確保し、各地から自費で講師に来学いただく形をとることも可能であるなど補足説明がなされた。最後に、学生のフィールドワークの人数に上限があるかとの質問があった。岡田事務局長よりフィールドワークは教員を中心としたゼミの授業の一環と捉えるため、各ゼミの人数に左右されるが上限はない。今後はゼミ以外の課外授業も有りうる、特に両副学長を中心に留学生の活用を進めていきたいとの考えを示した。

以上で、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業の概要については、承認された。

- ・ 迫田次長より、資料を基に今年度の事業計画・収支予算の内容及び、一部実施済みであることの説明がなされ、承認された。
- ・ 大久保副学長より、資料を基に次年度 COC 教育プログラムについて説明がなされた。この中で、地域人材育成プログラムの修了見込み証明書発行のための履修単位を申請時の12単位から14単位に変更した理由について質問があり、大久保副学長より次のような回答があった。座学だけでなく、地域と関わる演習が必要である考えから2単位加えることとなった。また、就職活動に役立てるため3年前期までで修了見込み証明書を発行できるよう、演習Ⅰまでを基準にした。また、大久保副学長は同日鹿児島大学にて行われた協議会に於いて、資格は認知されることで初めて役立つものになるという意見が出されたことにも触れ、県内の企業・自治体を訪問して理解と協力を求めたいとの考えを説明。

以上の審議の後、次年度 COC 教育プログラムについて異議なく承認された。

・その他

松木園副市長より、①各地方自治体も地方創生のために計画を練っている。②地元で就職してもらうために、産業を起こして雇用の創出が必要になるが、現在鹿児島県の景気は回復しつつある。③地元愛あふれた人材育成をしてほしい。④鹿児島市と本学の連携の中で学生から市政への提言があった。それを活かすためにも両委員会が設置されたことは良いことだと考える。⑤他の大学、市町村と一丸となって鹿児島を盛り立てていきたい。以上の発言があった。

・第2回 教育プログラム開発委員会

日時：平成28年2月26日（金）13：30～15：00

場所：鹿児島国際大学 図書館4階会議室

出席：

大久保幸夫	副学長・産学官地域連携センター長
飯田敏博	副学長・学生総合支援センター長
菊地裕幸	経済学部教授
太田秀春	国際文化学部教授
岩崎房子	福祉社会学部准教授
岡田和憲	事務局長
小林潤司	教務部長
飯田伸二	研究教育開発センター長
岩下栄一	西之表市 経済観光課 商工政策係長（代理）
中之浦伸一	南大隅町 総務課主幹（代理）
武田清孝	かごしま市商工会 広域担当経営指導員
種子田秀樹	鹿児島相互信用金庫営業開発部副部長（代理）
吉永弘児	鹿児島興業信用組合総務部総務課係長（代理）

議題：

第1号議案 平成28年度 COC 教育プログラムについて

第2号議案 平成28年度 COC 事業計画について

報告事項

- (1) 外部評価委員の委嘱について
- (2) 留学生等を活用したモニターツアーについて
- (3) 香港での海外インターンシップの開拓・実施について
- (4) 国内インターンシップについて
- (5) 鹿屋市シンポジウムの開催について
- (6) COC シンポジウムの開催（報告）
- (7) 南大隅町との包括連携協定調印式（報告）
- (8) 「肥薩オレンジ鉄道応援！沿線うんまかもんフェア in 阿久根駅」開催について
- (9) COC+参加校としての事業（報告）

(会議要旨)

事務局より出席者紹介の後、設置要項第3条に基づき議長は大久保委員長となる旨説明。大久保委員長が議長となる。

- ・資料を基に大久保委員長より、平成28年度 COC 教育プログラムについて説明の後、委員に意見を求めた。

小林委員より「Japanology」は元々社会についての広い内容となっていたが、今回から芸術・文化に偏った内容になった。経済・経営については国際ビジネスとグローバル英語等、他の科目でカバーできると補足説明があった。これに対し、「受講者は誰でも受けられるのか」、「授業は全て英語で行うのか」という質問があり、「誰でも受けられる」、「授業は全て英語で行う」との回答があった。

かごしま市商工会の武田委員より「新入生ゼミナールⅡ」では具体的に、どこに行き何をするのかと質問があった。大久保委員長より、経営学科では喜入のグリーンファームにて体験プログラムに参加し、地元の食材を食す予定だと説明。これに対し武田委員から、当日に喜入の地域おこし活動を行っている人をゲストに呼んではどうかとの提案がなされた。大久保委員長は学内でもレクリエーションとの差別化のために考えられていたことで、ボランティア又は非常勤講師として来ていただく予定であると説明。また、武田委員はグリーンファームに学生視点での意見・要望をフィードバックしたら喜ばれるだろうと提案。これに対し、大久保委員長から「良い案だと思うので、学生のレポートを提出する等学内にて検討する」と回答があった。

大久保委員長が委員3名に今行っているフィールドワークについての説明を求めた。

- ・太田委員は「鹿児島市との連携事業で、喜入のかつて武士が住んでいた集落を保存地区に指定する活動をしている。その中で学生と共に地域に入って、地域の魅力について調べているところだ」と説明。
- ・岩崎委員は大和村でのフィールドワークについて、「独居高齢者の聞き取り調査、地元の中学生と地域活性化についての意見交換、村立の特別養護老人ホーム訪問等を行った。講習の機会がなくて資格が取りづらい等、限られた資源の中でどうするかを話合った。これからの時代は“地域包括ケアシステム”がキーワードになると考えるので、学生と現場の生の声から学んできた」と説明。
- ・西之表市の岩下委員代理は、「商工関係と観光（特に国際化に向けたもの）と健康福祉の分野について共同事業を予定している。商工関係については商店街の活性化のために地元の方との話し合いを継続して数年間行ってきたので、これからは学生にも加わって欲しいと考えている。観光関係については鹿児島全体で海外からの観光客が増加しているので、今後対応していけるよう留学生を対象にモニターツアーを予定している。健康福祉分野についても充実させるための連携を考えている」と説明がなされた。

飯田敏博委員より国際ビジネスとグローバル英語プログラムについて説明。これに対し、鹿児島相互信用金庫の種子田委員代理から、「鹿児島に英語を話せる人材が少ないので、このプログラムにより多くの英語に特化した人材を地域へと排出して欲しい」と要望があった。

審議の結果、第1号議案「平成28年度 COC 教育プログラムについて」は承認された。

事務局より資料を基に平成28年度 COC 事業計画について説明。大久保委員長より「来年度の新入生から地域人材育成プログラムが組み込まれているため、卒業する4年後、5年後に地元への就職率を10%上げることが大きな目的である」と補足説明があった。

大まかな予定としては国内・国外インターンシップはいつ頃になるかという質問に対し、事務局より報告事項(3)、(4)の資料を基に「平成28年度国内インターンシップ事業計画について」及び、「香港での海外インターンシップの実施について」説明があった。また、資料に時期の記載がない項目については迫田次長より、7月末の前期試験終了後から9月15日（お盆を除く）に実施予定との説明がなされた。

審議の結果、第2号議案「平成28年度 COC 事業計画について」は承認された。

(報告事項)

(1) 外部評価委員の委嘱について

事務局より資料を基に地域人材育成委員会・設置要項第6条に基づき外部評価委員を3名委嘱するとの報告があった。

(2) 留学生等を活用したモニターツアーについて

岩下委員代理より資料を基に、本学留学生とモニターツアーを行うと報告。民泊等体験プログラムに重点を置く考えや、訪日観光客の体制づくりに役立てること、また、随時学生からの情報発信、アンケートの協力について報告された。

(3) 香港での海外インターンシップの開拓・実施について

事務局より資料を基に過去の海外インターンシップ、香港開拓調査、新たに加える香港のインターンシップ先について報告があった。

(4) 国内インターンシップについて

第2号議案にて説明したため省略。

(5) 鹿屋市シンポジウムの開催について

事務局より資料を基に鹿屋市シンポジウムの概要と、大久保委員長が本学の地方創生推進事業に関する基調講演をすることを説明し、参加を募った。

(6) COC シンポジウムの開催（報告）

事務局より資料を基に COC シンポジウムの概要を説明。事業協働機関の動員協力、パネルディスカッションの登壇協力のお礼を述べた。

(7) 南大隅町との包括連携協定調印式（報告）

南大隅町の中之浦委員代理より 2 月 20 日に包括連携協定を締結したこと、調印式、共同研究報告会の概要及び、今後の事業の概要について報告があった。特に観光については平成 29 年末に佐多岬周辺の設備が整うので、それまでに観光客をおもてなしできる人材育成を行いたい。そのために本学だけではなく、対岸の指宿市、大隅半島全域でも連携していく。また、少子高齢化という健康・福祉に関する大きな課題について、南大隅町に不足している大学生視点からの新たな気付きを期待している。南大隅町の青年団等、若者の集団との交流・意見交換も実現させたいとの意向が述べられた。

(8) 「肥薩オレンジ鉄道応援！沿線うんまかもんフェア in 阿久根駅」開催について

資料を基に菊地委員より、概要を説明。参加要請を行った。

鹿児島相互信用金庫・種子田委員代理より昨年の報告とともに今後も協力していきたいとの意向が述べられた。

(9) COC+参加校としての事業（報告）

資料を基に事務局より、「COC+に係る県との調印式」、「第 1 回学卒者地元定着促進協議会」、「平成 27 年度事業実施計画」、「食と観光で世界を魅了する『かごしま』の地元定着促進プログラム キックオフシンポジウム」について説明。キックオフシンポジウムについて参加要請のお願いがあった。

その他

岡田委員より「うんまかもんフェア」については参加することが叶わないが、事情を説明した上で理解を求めた。

事務局より報告事項(6)COCシンポジウムの開催について、事業協働機関のコストシェアによる支援に対してお礼を述べた。

大久保委員長より本会全般の質問・意見を求めたのに対し、鹿児島興業信用組合・吉永委員代理より、「COC事業が動き出してきた実感があった。今後も独自の連携を考えていきたい」との意向が述べられた。

飯田伸二委員より、全国的なインターンシップ（学外での活動）のトレンドは「前倒しの長期化」、「学習実態の可視化・発信」である。これらのノウハウを他大学等から学ぶことも考えた方が良いとの発言があった。

武田委員よりかごしま市商工会のアンテナショップにて、インターンシップを行った際に感じた学生と団体職員のギャップを小さくするため、事前の打ち合わせやマッチングに力を入れて欲しいとの要望があった。これに対し、大久保委員長よりまた改めて相談をしたいとの提案があった。

大久保委員長より本会で出た意見をいかしたい。また、平成28年度 地域人材育成プログラムで問題点等発生した場合は、次回の教育プログラム開発委員会にて報告し、今後に活かせるようにしたいと述べた。

地域人材育成プログラム(経済学科)

	科目名	授業科目	単位数	年次 配当	所属	プログラム修了 所要単位数	
(1)	地域志向科目	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目	2	
		地域創生Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		地域から世界へ	2	1	共通教育科目		
		かごしま教養プログラム	2	1	共通教育科目		
		かごしまフィールドスクール	2	1	共通教育科目		
		Japanology	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅰ	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅲ	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅳ	2	1	共通教育科目		
(2)	地域志向演習	新入生ゼミナールⅡ	2	1	共通教育科目	2	合計 22 単位 ③
(3)	キャリアデザイン科目	コミュニケーション力育成	2	1	共通教育科目	2	
		自己分析と文章育成	2	2	共通教育科目		
		論理的思考と数的処理	2	2	共通教育科目		
(4)	地域人材育成科目	鹿児島論	2	1	専門教育科目	6	
		地方財政論	2	2	専門教育科目		
		地域経済論	2	2	専門教育科目		
		農業経済論	2	2	専門教育科目		
		食料経済論	2	2	専門教育科目		
		国内インターンシップ	2	2	専門教育科目		
		海外インターンシップ	3	2	専門教育科目		
		経済調査実習	2	3	専門教育科目		
		中小企業論	2	3	専門教育科目		
		(5)	地域フィールド演習 (①参照)	演習Ⅰ(②参照)	2		3
演習Ⅱ	2			3	専門教育科目	2	
演習Ⅲ	2			4	専門教育科目	2	
演習Ⅳ(卒業研究含む)	4			4	専門教育科目	4	

(履修上の注意事項)

- ①地域を研究のフィールドとした演習(Ⅰ～Ⅳ)を「地域フィールド演習」として認定します。
演習(ゼミ)が地域フィールド演習かそうでないかは、演習案内またはシラバスを参照してください。
- ②3年次前期終了までに(1)～(4)(12単位)と演習Ⅰ(2単位)を修得した学生に対し、
「地域人材育成プログラム修了見込証明書」を発行します。
- ③最低取得単位数(合計22単位)を修得した学生に対し、卒業時に「地域人材育成プログラム修了証」
を発行します。

地域人材育成プログラム(経営学科)

	科目名	授業科目	単位数	年次 配当	所属	プログラム修了 所要単位数	
(1)	地域志向科目	地域創生Ⅰ	2	1	専門教育科目	2	
		地域創生Ⅱ	2	1	専門教育科目		
		鹿児島論	2	1	専門教育科目		
		地場産業論	2	1	専門教育科目		
		起業論	2	1	専門教育科目		
		地域社会論	2	1	専門教育科目		
		プレインターンシップ	1	1	専門教育科目		
		NPO概論	2	2	専門教育科目		
		まちづくり概論	2	2	専門教育科目		
		地域経済論	2	2	専門教育科目		
		国内インターンシップ	2	2	専門教育科目		
		海外インターンシップ	3	2	専門教育科目		
		地域フィールドワーク	2	3	専門教育科目		
(2)	地域志向演習	新入生ゼミナールⅡ	2	1	共通教育科目	2	
(3)	キャリアデザイン科目	コミュニケーション力育成	2	1	共通教育科目	2	
		自己分析と文章育成	2	2	共通教育科目		
		論理的思考と数的処理	2	2	共通教育科目		
(4)	地域人材育成科目 (④参照)	観光概論	2	1	専門教育科目	6	
		観光事業論	2	1	専門教育科目		
		国内旅行業務論	2	1	専門教育科目		
		海外旅行業務論	2	1	専門教育科目		
		地域創生Ⅰ	2	1	専門教育科目		
		地域創生Ⅱ	2	1	専門教育科目		
		鹿児島論	2	1	専門教育科目		
		地場産業論	2	1	専門教育科目		
		起業論	2	1	専門教育科目		
		プレインターンシップ	1	1	専門教育科目		
		地域社会論	2	2	専門教育科目		
		NPO概論	2	2	専門教育科目		
		まちづくり概論	2	2	専門教育科目		
		地域経済論	2	2	専門教育科目		
		国内インターンシップ	2	2	専門教育科目		
		海外インターンシップ	3	2	専門教育科目		
		中小企業論	2	3	専門教育科目		
		観光政策	2	3	専門教育科目		
地域フィールドワーク	2	3	専門教育科目				
(5)	地域フィールド演習 (①参照)	演習Ⅰ(②参照)	2	3	専門教育科目	2	
		演習Ⅱ	2	3	専門教育科目	2	
		演習Ⅲ	2	4	専門教育科目	2	
		演習Ⅳ(卒業研究含む)	4	4	専門教育科目	4	
							合計22単位③

(履修上の注意事項)

- ①地域を研究のフィールドとした演習(Ⅰ～Ⅳ)を「地域フィールド演習」として認定します。
演習(ゼミ)が地域フィールド演習かそうでないかは、演習案内またはシラバスを参照してください。
- ②3年次前期終了までに(1)～(4)(12単位)と演習Ⅰ(2単位)を修得した学生に対し、「地域人材育成プログラム修了見込証明書」を発行します。
- ③最低取得単位数(合計22単位)を修得した学生に対し、卒業時に「地域人材育成プログラム修了証」を発行します。
- ④地域志向科目最低修得単位数(2単位)にあてた科目で地域人材育成科目にある科目は、地域人材育成科目最低修得単位数には数えません。

地域人材育成プログラム(社会福祉学科)

	科目名	授業科目	単位数	年次 配当	所属	プログラム修了 所要単位数	
(1)	地域志向科目	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目	2	
		地域創生Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		地域から世界へ	2	1	共通教育科目		
		かごしま教養プログラム	2	1	共通教育科目		
		かごしまフィールドスクール	2	1	共通教育科目		
		Japanology	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅰ	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅲ	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅳ	2	1	共通教育科目		
		国内インターンシップ	2	2	共通教育科目		
		海外インターンシップ	3	2	共通教育科目		
(2)	地域志向演習	新入生ゼミナールⅡ	2	1	共通教育科目	2	合計 22 単位 ③
(3)	キャリアデザイン科目	コミュニケーション力育成	2	1	共通教育科目	2	
		自己分析と文章育成	2	2	共通教育科目		
		論理的思考と数的処理	2	2	共通教育科目		
(4)	地域人材育成科目	鹿児島社会福祉入門	2	1	専門教育科目	6	
		高齢者福祉論	2	1	専門教育科目		
		介護福祉論	2	1	専門教育科目		
		地域福祉論Ⅰ	2	2	専門教育科目		
		地域福祉論Ⅱ	2	2	専門教育科目		
		子ども家庭福祉論	2	2	専門教育科目		
		福祉行財政と福祉計画	2	3	専門教育科目		
(5)	地域フィールド演習 (①参照)	演習Ⅰ(②参照)	2	3	専門教育科目	2	
		演習Ⅱ	2	3	専門教育科目	2	
		演習Ⅲ	2	4	専門教育科目	2	
		演習Ⅳ(卒業研究含む)	4	4	専門教育科目	4	

(履修上の注意事項)

- ①地域を研究のフィールドとした演習(Ⅰ～Ⅳ)を「地域フィールド演習」として認定します。
演習(ゼミ)が地域フィールド演習かそうでないかは、演習案内またはシラバスを参照してください。
- ②3年次前期終了までに(1)～(4)(12単位)と演習Ⅰ(2単位)を修得した学生に対し、
「地域人材育成プログラム修了見込証明書」を発行します。
- ③最低取得単位数(合計22単位)を修得した学生に対し、卒業時に「地域人材育成プログラム修了証」
を発行します。

地域人材育成プログラム(児童学科)

	科目名	授業科目	単位数	年次 配当	所属	プログラム修了 所要単位数	
(1)	地域志向科目	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目	2	合計 22 単位 ③
		地域創生Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		地域から世界へ	2	1	共通教育科目		
		かごしま教養プログラム	2	1	共通教育科目		
		かごしまフィールドスクール	2	1	共通教育科目		
		Japanology	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅰ	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅲ	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅳ	2	1	共通教育科目		
		国内インターンシップ	2	2	共通教育科目		
海外インターンシップ	3	2	共通教育科目				
(2)	地域志向演習	新入生ゼミナールⅡ	2	1	共通教育科目	2	
(3)	キャリアデザイン科目	コミュニケーション力育成	2	1	共通教育科目	2	
		自己分析と文章育成	2	2	共通教育科目		
		論理的思考と数的処理	2	2	共通教育科目		
(4)	地域人材育成科目	鹿児島教育	2	2	専門教育科目	6	
		子ども家庭福祉Ⅰ	2	2	専門教育科目		
		子ども家庭福祉Ⅱ	2	2	専門教育科目		
		乳児保育	2	2	専門教育科目		
		障がい児保育	2	2	専門教育科目		
		幼児教育方法	2	2	専門教育科目		
		子育て支援論	2	3	専門教育科目		
		演習Ⅰ(②参照)	2	3	専門教育科目		2
(5)	地域フィールド演習 (①参照)	演習Ⅱ	2	3	専門教育科目	2	
		演習Ⅲ	2	4	専門教育科目	2	
		演習Ⅳ(卒業研究含む)	4	4	専門教育科目	4	

(履修上の注意事項)

- ①地域を研究のフィールドとした演習(Ⅰ～Ⅳ)を「地域フィールド演習」として認定します。
演習(ゼミ)が地域フィールド演習かそうでないかは、演習案内またはシラバスを参照してください。
- ②3年次前期終了までに(1)～(4)(12単位)と演習Ⅰ(2単位)を修得した学生に対し、「地域人材育成プログラム修了見込証明書」を発行します。
- ③最低取得単位数(合計22単位)を修得した学生に対し、卒業時に「地域人材育成プログラム修了証」を発行します。

地域人材育成プログラム(国際文化学科)

	科目名	授業科目	単位数	年次 配当	所属	プログラム修了 所要単位数	
(1)	地域志向科目	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目	2	
		地域創生Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		地域から世界へ	2	1	共通教育科目		
		かごしま教養プログラム	2	1	共通教育科目		
		かごしまフィールドスクール	2	1	共通教育科目		
		Japanology	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅰ	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅲ	2	1	共通教育科目		
		教養特講Ⅳ	2	1	共通教育科目		
(2)	地域志向演習	新入生ゼミナールⅡ	2	1	共通教育科目	2	合計 22 単位 ③
(3)	キャリアデザイン科目	コミュニケーション力育成	2	1	共通教育科目	2	
		自己分析と文章育成	2	2	共通教育科目		
		論理的思考と数的処理	2	2	共通教育科目		
(4)	地域人材育成科目	鹿児島県の歴史	2	1	専門教育科目	6	
		地域と考古学	2	1	専門教育科目		
		鹿児島県の文化	2	1	専門教育科目		
		ビジネス中国語会話	2	2	専門教育科目		
		ビジネス韓国語会話	2	2	専門教育科目		
		国内インターンシップ	2	2	専門教育科目		
		海外インターンシップ	3	2	専門教育科目		
		観光中国語会話	2	3	専門教育科目		
		観光韓国語会話	2	3	専門教育科目		
(5)	地域フィールド演習 (①参照)	演習Ⅰ(②参照)	2	3	専門教育科目	2	
		演習Ⅱ	2	3	専門教育科目	2	
		演習Ⅲ	2	4	専門教育科目	2	
		演習Ⅳ(卒業研究含む)	4	4	専門教育科目	4	

(履修上の注意事項)

- ①地域を研究のフィールドとした演習(Ⅰ～Ⅳ)を「地域フィールド演習」として認定します。
演習(ゼミ)が地域フィールド演習かそうでないかは、演習案内またはシラバスを参照してください。
- ②3年次前期終了までに(1)～(4)(12単位)と演習Ⅰ(2単位)を修得した学生に対し、「地域人材育成プログラム修了見込証明書」を発行します。
- ③最低取得単位数(合計22単位)を修得した学生に対し、卒業時に「地域人材育成プログラム修了証」を発行します。

地域人材育成プログラム(音楽学科)

科目名	授業科目	単位数	年次 配当	所属	プログラム修了 所要単位数
(1) 地域志向科目	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目	2
	地域創生Ⅱ	2	1	共通教育科目	
	地域から世界へ	2	1	共通教育科目	
	かごしま教養プログラム	2	1	共通教育科目	
	かごしまフィールドスクール	2	1	共通教育科目	
	Japanology	2	1	共通教育科目	
	教養特講Ⅰ	2	1	共通教育科目	
	教養特講Ⅱ	2	1	共通教育科目	
	教養特講Ⅲ	2	1	共通教育科目	
	教養特講Ⅳ	2	1	共通教育科目	
	国内インターンシップ	2	2	共通教育科目	
	海外インターンシップ	3	2	共通教育科目	
(2) 地域志向演習	新入生ゼミナールⅡ	2	1	共通教育科目	2
(3) キャリアデザイン科目	コミュニケーション力育成	2	1	共通教育科目	2
	自己分析と文章育成	2	2	共通教育科目	
	論理的思考と数的処理	2	2	共通教育科目	
(4) 地域人材育成科目	民族音楽概論(日本音楽史を)	2	2	専門教育科目	6
	音楽教育研究Ⅰ	2	2	専門教育科目	
	音楽教育研究Ⅱ	2	2	専門教育科目	
	郷土芸能研究	2	3	専門教育科目	
	伝統音楽演習	2	3	専門教育科目	
	合唱指導法Ⅰ	2	3	専門教育科目	
	合唱指導法Ⅱ	2	3	専門教育科目	
	吹奏楽指導法Ⅰ	2	3	専門教育科目	
	吹奏楽指導法Ⅱ	2	3	専門教育科目	
(5) 地域フィールド演習 (①参照)	演習Ⅰ(②参照)	2	3	専門教育科目	2
	演習Ⅱ	2	3	専門教育科目	2
	演習Ⅲ	2	4	専門教育科目	2
	演習Ⅳ(卒業研究含む)	4	4	専門教育科目	4

合計 22 単位 ③

(履修上の注意事項)

- ①地域を研究のフィールドとした演習(Ⅰ～Ⅳ)を「地域フィールド演習」として認定します。
演習(ゼミ)が地域フィールド演習かそうでないかは、演習案内またはシラバスを参照してください。
- ②3年次前期終了までに(1)～(4)(12単位)と演習Ⅰ(2単位)を修得した学生に対し、「地域人材育成プログラム修了見込証明書」を発行します。
- ③最低取得単位数(合計22単位)を修得した学生に対し、卒業時に「地域人材育成プログラム修了証」を発行します。

国際ビジネスとグローバル英語プログラム

科目区分		授業科目	単位	年次 配当	所属	プログラム修了 所要単位数	
基幹科目		地域から世界へ	2	1	学部共通	4単位 以上	
		Global Economy and Business	2	1	学部共通		
	海外インターンシップ		3	2	学部共通		
					経済学科 専門教育科目		
経営学科 専門教育科目							
スタートアップ科目	国際ビジネス	ビジネス英語	2	1	国際文化学科 専門教育科目	2単位 以上	
		Cross-Cultural Activities in English	2	1	国際文化学科 専門教育科目		
	英語	英語海外研修	2	1	学部共通	4単位 以上	
		英文読解の技法	2	1	学部共通		
		TOEIC・TOEFL対策	2	1	学部共通		
		コミュニケーションのための英文法	2	1	学部共通		
		英会話Ⅰ	2	1	国際文化学科 専門教育科目		
		英会話Ⅱ	2	1	国際文化学科 専門教育科目		
		実用英語Ⅰ	2	1	国際文化学科 専門教育科目		
		実用英語Ⅱ	2	1	国際文化学科 専門教育科目		
	フォローアップ科目	英語	英語中級オーラル・スキルズⅠ	2	1	国際文化学科 専門教育科目	4単位 以上
			英語中級オーラル・スキルズⅡ	2	1	国際文化学科 専門教育科目	
			英語中級ライティング・スキルズ	2	1	国際文化学科 専門教育科目	
			和英翻訳ワークショップ	2	2	国際文化学科 専門教育科目	
英語プレゼンテーション・スキルズ			2	2	国際文化学科 専門教育科目		

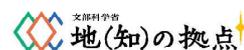
合計16単位以上

平成28年度 鹿児島国際大学 新規事業計画書

部局名	産学官地域連携センター	作成日	平成28年2月4日	
事業名	地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+) 『フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム』			
事業の目的	平成28年度からの新カリキュラムにおいて、「地域人材育成プログラム」と「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」を実施し、授業や演習における事業協働地域等の課題の解決など、フィールドワークの充実・発展および地域志向の学生の増加や人材育成を図る。さらに、事業協働機関と協力して魅力的な雇用を創出し学生・地域のニーズに応えることにより、事業協働地域における就職率の改善を図り、地方創生に資することを目的とする。			
現状・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域経済の再生 <ul style="list-style-type: none"> ○第1次産業の後継者不足 ○第2次産業の衰退 ○商店街の空き店舗増加 ○雇用の確保・所得の向上 2. 福祉・介護・育児 <ul style="list-style-type: none"> ○介護・高齢者福祉の充実 ○障がい者福祉の充実 ○子育て支援 3. 国際化 <ul style="list-style-type: none"> ○外国人観光客等の受入態勢の整備 ○海外への情報発信 ○地域レベルの国際化 			
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「地域人材育成委員会」および「教育プログラム開発委員会」の実施 2. 新カリキュラムに基づき、「地域人材育成プログラム」、「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」の教育プログラム科目の実施 プログラム修了証または取得見込証明書を発行し、県内での就職活動に役立てる 3. 事業協働機関と連携した新規事業開拓のための支援 4. 他県のCOC+大学や関係機関の視察による新規事業の開拓や雇用拡大に関する調査研究 5. 国内インターンシップ・フィールドワークの開拓及び実施 6. 事業報告会の開催および報告書の作成 			
主な日程	<p>平成28年4月～3月 COC+推進副コーディネーター、事務補助員を雇用し、関連事務を実施。 「地域人材育成委員会」および「教育プログラム開発委員会」を実施。 地域志向科目の実施。 新カリキュラムに基づき、「地域人材育成プログラム」、「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」の教育プログラム科目を実施。 ホームページによる取組と成果の公表。</p> <p>2月 事業報告会の開催 学内評価委員会、学外評価委員会による評価</p> <p>3月 報告書の作成 ※詳細な活動計画は今年度中に決定予定</p>			
平成29年度以降の計画	平成28年度の実施結果等を参考に検討する。			
平成28年度 事業の積算	科目	経費	科目	経費
	消耗品費	80千円	報酬・委託費 <small>(その他(諸経費))</small>	190千円
	通信運搬費	35千円	職雑給 <small>(人件費)</small>	7,006千円
	旅費交通費	1,238千円	教雑給 <small>(謝金)</small>	170千円
	印刷製本費	501千円		
	賃借料 <small>(その他(諸経費))</small>	780千円	計	10,000千円
収入	内容	文部科学省 平成27年度大学改革推進等補助金 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」		
	金額	8,900千円		

2 COC+参加校としての取組

(1) 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)計画調書



平成27年度大学教育再生戦略推進費 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)計画調書

[基本情報]

1. 大学名	鹿児島国際大学							
2. 機関番号	申請 大学	37701						
3. 事業者 (大学等の設置者)	ふりがな (氏名)	つまがりさだとし 津曲貞利	(所属・職名) 学校法人津曲学園 理事長					
4. 申請者 (大学の学長)	ふりがな (氏名)	つまがりさだとし 津曲貞利	(所属・職名) 学長					
5. 事業責任者	ふりがな (氏名)	おおくぼゆきお 大久保幸夫	副学長 (所属・職名) 産学官地域連携センター長					
6. 事業名	フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム							
7. 事業のキーワード	地域人材育成プログラム、フィールドワーク、インターンシップ、国際ビジネスとグローバル英語プログラム、地元就職率の向上・雇用創出							
8. 事業のポイント(400字以内) (396文字)	「地域人材育成プログラム」を新設。修了証を発行し就職活動に有効な資格になるよう地元での認知度を高める。プログラムは地域志向科目、地域志向演習、キャリアデザイン科目、地域人材育成科目、地域フィールド演習から構成され、それらを履修した学生が地域で就職して地方創生に寄与することを目指す。インターンシップを通して鹿児島の企業を知り、郷土で働く喜びと意義を実感する。インターンシップ先の開拓を県や金融機関と協力して行い雇用創出に結び付ける。事業協働地域の課題である国際化に対応し、海外インターンシップの拡大と「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」を新設する。地域でフィールドワークに取り組み、課題解決のための提案と活動を行う。事業協働地域が求める「社会性・国際性があり、チームの中で仲間と協調して主体的に仕事ができるコミュニケーション能力の高い人材」を育成し、地元就職率の向上と雇用創出を目指す。							
9. 学生・教職員数	学生数				教職員数(H27.5.1)			
		入学定員 (平成27年度)	全学生数 (H27.5.1)	収容定員 (平成27年度)	定員充足率 (H27.5.1)	教員数	職員数	合計
	学部	775 人	2,700 人	3,145 人	85.9%	106 人	89 人	195 人
	大学院	39 人	91 人	89 人	102.2%			
合計	814 人	2,791 人	3,234 人	86.3%				
10. 学部・研究科等名	学部等数	3		研究科等数	3			
	経済学部 福祉社会学部 国際文化学部 (研究科等名) 経済学研究科 福祉社会学研究科 国際文化研究科							
11.	学校教育法施行規則第172条の2第3項において「公表するものとする」とされた教育研究活動の状況について、公表しているHPのURL http://www.iuk.ac.jp/kouhyou/							

12. 事業経費(単位:千円) ※千円未満は切り捨て							
年度(平成)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	合計	
事業規模	10,000	10,000	10,000	6,666	5,000	41,666	
内訳	補助金申請額	10,000	10,000	10,000	6,666	3,333	39,999
	大学負担額					1,667	1,667

※1. 文部科学省や他省庁が実施する他の補助金(公募要領P. 9の2.(11)参照)は「大学負担額」に計上しないこと。

※2. 国立大学における運営費交付金、公立大学における運営費交付金等、私立大学の私立大学経常費補助金等は「大学負担額」に計上しないこと。

※3. 事業申請書中、他の補助金事業の取組は「申請書等の作成・提出方法」において示しているとおり、別の色で記載すること。ただし、事業経費欄には含めないこと。

13. 事業協働機関	(参加大学)
	(参加自治体) 鹿児島市、阿久根市、西之表市、南大隅町、鹿児島県大島郡大和村
	(参加企業等) 鹿児島相互信用金庫、鹿児島興業信用組合

14. 事業の一部を協力する大学	
------------------	--

15. 事業事務総括者部課の連絡先 ※採択結果の通知、ヒアリング等の事務連絡先となります。			
部課名	産学官地域連携センター		所在地 鹿児島県鹿児島市坂之上8-34-1
責任者	ふりがな(氏名) おおくぼゆきお 大久保幸夫	(所属・職名)	副学長 産学官地域連携センター長
担当者	ふりがな(氏名) さこだこういち 迫田耕一	(所属・職名)	産学官地域連携センター次長
	電話番号	099-261-3211	緊急連絡先 099-263-0686
	e-mail(主)	sangakukan@ofc.iuk.ac.jp	e-mail(副) sakoda@ofc.iuk.ac.jp

※原則として、当該機関事務局の担当部課とし、責任者は課長相当職、担当者は係長相当職とします。

e-mail(主)については、できる限り係や課などで共有できるグループメールとし、必ず(副)にも別のアドレスを記入してください。

(2) 鹿児島県と県内8大学の「雇用創出と若者定着に関する協定」調印式

平成27年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」
採択に伴う「雇用創出と若者定着に関する協定」調印式

日時:平成27年12月14日(月)13:30~

会場:鹿児島大学事務局第三会議室(4階)

式 次 第

- 1 開 式
- 2 事業の概要説明 鹿児島大学理事・副学長(研究)住吉文夫
- 3 協定調印式
鹿児島県知事 伊藤祐一郎(代理:佐々木 浩 副知事)
鹿児島大学長 前田 芳實
鹿屋体育大学長 福永 哲夫(代理:中禮裕己 理事・副学長・事務局長)
鹿児島国際大学長 津曲 貞利(代理:大久保幸夫 副学長・産学官地域連携担当)
志学館大学長 清水 昭雄(代理:酒瀬川純行 学長代行)
第一工業大学長 吉武 毅人
鹿児島県立短期大学長 種村 完司
鹿児島女子短期大学長 幾留 秀一
鹿児島工業高等専門学校長 丁子 哲治
(代理:植村眞一郎 副校長(国際交流・地域連携担当))
- 4 あいさつ 鹿児島県副知事 佐々木 浩
鹿児島大学長 前田 芳實
(COC+事業推進代表者)
- 5 閉 式
- 6 質疑応答(報道機関)

雇用創出と若者定着に関する協定書

大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就業先を創出・開拓するとともに、地域が求める人材の育成を図り、若者の地元定着を促進し、人口の増加や地域経済の拡大に取り組むことが求められている。

当該取組については、参加大学等において、数値目標を設定し、その実現のために、国の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+I)」を活用しながら進めることとしているが、これらの取組が鹿児島県の支援のもとで効果的かつ効果的に推進されるよう、参加大学等と鹿児島県の間に雇用創出と若者定着に関する協定を締結する。

I 具体的な数値目標

- (1) 目標年度 平成31年度
 (2) 目標数値
 ①参加大学等の地元就職率 61.5% (7.5%増)
 ②参加大学等の事業協働機関へのインターンシップ参加者数 659人 (289人増)
 ③事業協働機関からの寄付講座数 8講座 (6増)
 ④事業協働地域雇用創出数 27人

※()はH26年度比

II 取組概要

- 1 参加大学等
 (1) 地域ニーズを踏まえた教育プログラムの構築と大学等の連携による協働教育の実施
 (2) 地元企業等の魅力発信機会の充実
 (3) 就職につながるインターンシップの構築と学生の参加促進
 (4) 地元企業等との共同研究や委託研究による技術・商品の開発
 (5) 就業者へのリカレント教育など持続的定着につながる支援
- 2 鹿児島県
 (1) 地方創生に係る国及び県の施策を大学と情報共有
 (2) 地元企業等情報への提供
 (3) 地元就職率向上に向けた県民意識の醸成
 (4) 県試験研究機関との共同研究等による技術・商品の開発やマーケティング支援
 (5) 地元企業等の職場環境改善の促進

III 成果の検証

取組の目標と成果についてはPDCAに基づき毎年度、事業協働機関において検証を行う。

平成27年12月14日

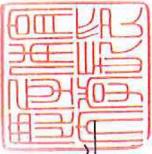
前田 芳 實

鹿児島大学 長



福永 哲 夫

鹿屋体育大学 長



津 田 貞 利

鹿児島国際大学 長



清 水 昭 雄

志 学 館 大 学 長



吉 武 毅 人

第一工業大学 長



植 村 亮 司

鹿児島県立短期大学 長



磯 留 秀

鹿児島女子短期大学 長



丁 子 哲 治

鹿児島工業高等専門学校 長



伊 藤 祐 一 郎

鹿児島県知事



(3) 学卒者地元定着促進協議会

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

学卒者地元定着促進協議会(仮称)設立会議及び
平成27年度第1回学卒者地元定着促進協議会議事次第(案)

日時 平成27年12月21日(月) 10:30~12:00

場所 鹿児島大学事務局第3会議室(4階)

会議次第

○学卒者地元定着促進協議会(仮称)設立会議

- 1 開会
- 2 出席者紹介
- 3 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の事業概要について
- 4 協議会の設立及び協議会要項の制定について

○平成27年度第1回学卒者地元定着促進協議会

【協議事項】

- 1 副議長の選出について
- 2 COC+教育プログラム開発委員会設置要項(案)について

【報告事項】

平成27年度事業実施計画について

【その他】

- (1) キックオフシンポジウムについて
- (2) 次回協議会日程について

<資料>

- ・[資料1] 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」事業概要
- ・[資料2] 学卒者地元定着促進協議会要項(案)
- ・[資料3] COC+教育プログラム開発委員会設置要項(案)
- ・[資料4] 平成27年度事業実施計画
- ・[資料5] キックオフシンポジウムプログラムイメージ

学卒者地元定着促進協議会委員名簿

2015.12.21現在

事業協働機関の名称	委員		備考
	職名	氏名	
鹿児島大学	学長	前田 芳實	議長 COC+事業推進代表者
	理事・副学長(研究担当)	住吉 文夫	
	理事・副学長(教育担当)	清原 貞夫	COC+教育プログラム 開発委員会委員長
	産学官連携推進センター長	福島 誠治	COC+事業推進責任者
鹿屋体育大学	学長	福永 哲夫	
鹿児島国際大学	学長	津曲 貞利	
志学館大学	学長	清水 昭雄	
第一工業大学	学長	吉武 毅人	
鹿児島県立短期大学	学長	種村 完司	
鹿児島女子短期大学	学長	幾留 秀一	
鹿児島工業高等専門学校	校長	丁子 哲治	
鹿児島県	企画部次長	中堂 蘭 哲郎	
鹿児島県工業技術センター	所長	中村 俊一	
鹿児島県大隅加工技術研究センター	所長	岩元 睦夫	
(公財)かごしま産業支援センター	事務局長	加世田 登	
(公社)鹿児島県観光連盟	専務理事	白橋 大信	
(公社)鹿児島県工業倶楽部	事務局長	米山 高兆	
鹿児島県農業協同組合中央会	専務理事	片平 金也	
鹿児島県森林組合連合会	代表理事専務	山野 隆	
鹿児島県漁業協同組合連合会	参事	西 一樹	
鹿児島経済同友会	事務局長	浦底 康助	
鹿児島県商工会議所連合会	常任幹事	山下 春洋	
鹿児島県商工会連合会	事務局長	鮫島 拓博	
鹿児島県中小企業団体中央会	事務局長	永田 福一	
(社福)鹿児島県社会福祉協議会	事務局次長	本村 道雄	
(株)鹿児島TLO	代表取締役	吹留 博実	
(株)鹿児島銀行	営業支援部長	鶴田 司	

学卒者地元定着促進協議会要項(案)

平成 27 年〇月〇日 学卒者地元定着促進協議会決定

(設置及び目的)

第 1 鹿児島県内における大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)が、地方公共団体、企業、経済・産業団体等と協働し、地域が求める人材を育成し、新規雇用創出及び既存雇用拡大によって学卒者の地元定着を推進するため、学卒者地元定着促進協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(定義)

第 2 この要項において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 「COC+事業」とは、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」をいう。
- (2) 「事業協働機関」とは、別表に掲げる機関をいう。
- (3) 「学卒者」とは、大学等を当該年度に卒業する者をいう。
- (4) 「地元就職率」とは、鹿児島県に所在する事業所(国、地方公共団体、企業等)に就職した者の就職者総数に対する割合をいう。

(協議事項)

第 3 協議会は、第 1 に掲げる目的を達成するため、事業の運営方針を検討するとともに、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 学卒者の地元就職率向上及び持続的定着に関すること。
- (2) 地域が求める人材育成に係る教育プログラムに関すること。
- (3) インターンシップに関すること。
- (4) 事業協働機関における情報共有及び情報発信に関すること。
- (5) その他 COC+事業の推進に必要な事項

(組織)

第 4 協議会は、別表に掲げる者をもって組織する。

- 2 協議会に議長及び副議長を置き、議長は COC+事業推進代表者をもって充て、副議長は協議会の議を経て議長が指名する。
- 3 議長は、協議会を主宰する。
- 4 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときは、その職務を代行する。

(議事)

第 5 協議会は、委員の過半数の出席により成立し、議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(代理出席)

第 6 第 4 第 1 項に規定する委員が協議会に出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

(委員以外の者の出席)

第 7 協議会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(COC+教育プログラム開発委員会)

第8 COC+事業における教育プログラムの実施に係る具体的な事項を審議するため、COC+教育プログラム開発委員会を置く。

2 COC+教育プログラム開発委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(部会)

第9 協議会の円滑な運営を図り、その活動を推進するため、部会を置くことができるものとする。

2 部会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10 協議会の事務は、各事業協働機関の協力を得て、鹿児島大学研究国際部社会連携課が行う。

(雑則)

第11 この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成27年〇月〇日から実施する。

別表(第2及び第4関係)

事業協働機関名	職名	備考
鹿児島大学	学長	COC+事業推進代表者・議長
	理事・副学長(研究担当)	
	理事・副学長(教育担当)	COC+教育プログラム開発委員会委員長
	産学官連携推進センター長	COC+事業推進責任者
鹿屋体育大学	学長	
鹿児島国際大学	学長	
志学館大学	学長	
第一工業大学	学長	
鹿児島県立短期大学	学長	
鹿児島女子短期大学	学長	
鹿児島工業高等専門学校	校長	
鹿児島県	企画部次長	

鹿児島県工業技術センター	所長	
鹿児島県大隅加工技術研究センター	所長	
(公財)かごしま産業支援センター	事務局長	
(公社)鹿児島県観光連盟	専務理事	
(公社)鹿児島県工業倶楽部	事務局長	
鹿児島県農業協同組合中央会	専務理事	
鹿児島県森林組合連合会	代表理事専務	
鹿児島県漁業協同組合連合会	参事	
鹿児島経済同友会	事務局長	
鹿児島県商工会議所連合会	常任幹事	
鹿児島県商工会連合会	事務局長	
鹿児島県中小企業団体中央会	事務局長	
(社福)鹿児島県社会福祉協議会	参事	
(株)鹿児島 TLO	代表取締役	
(株)鹿児島銀行	営業支援部長	

(4) COC+教育プログラム開発委員会

COC+教育プログラム開発委員会設置要項 (案)

平成 27 年〇月〇日 学卒者地元定着促進協議会決定

(趣旨)

第1 学卒者地元定着促進協議会設置要項第8第2項に基づき、COC+教育プログラム開発委員会(以下「委員会」という。)に関し必要な事項を定める。

(協議事項)

第2 委員会は、COC+事業における教育プログラム等の実施を円滑に図るため、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 地域が求める人材育成に係る教育プログラムの開発に関すること。
- (2) 学卒者の地元就職率向上及び持続的定着に係るインターンシップ等の実施に関すること。
- (3) 事業協働地域の分析を基にした雇用創出・就職率向上の目標値管理に関すること。
- (4) その他 COC+事業における教育プログラムの開発等に係る必要な事項

(組織)

第3 委員会は、別表に掲げる者をもって組織する。

- 2 委員会に委員長を置き、鹿児島大学理事・副学長(教育担当)をもって充てる。
- 3 委員会に副委員長を置き、鹿児島大学産学官連携推進センターCOC+推進部門長をもって充てる。
- 4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 5 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、委員長の職務を代行する。

(議事)

第4 委員会は、委員の過半数の出席により成立し、議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は委員長の決するところによる。

(代理出席)

第5 第3第1号に規定する委員が委員会に出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

(委員以外の者の出席)

第6 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(専門部会)

第7 委員会の円滑な運営を図り、その活動を推進するため、委員会に専門部会を置くことができるものとする。

- 2 専門部会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第8 委員会の事務は、各事業協働機関の協力を得て、鹿児島大学研究国際部社会連携課及び学生部が共同で行う。

(雑則)

第9 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成27年〇月〇日から実施する。

別表(第4関係)

事業協働機関名	職名	備考
鹿児島大学	理事・副学長(教育担当)	委員長
	産学官連携推進センター長	COC+事業推進責任者
	産学官連携推進センター COC+推進部門長	副委員長
鹿屋体育大学	キャリア形成支援室長	
鹿児島国際大学	副学長・産学官地域連携センター長	
志学館大学	学長補佐(学務担当)	
第一工業大学	工学部長	
鹿児島県立短期大学	教務委員長	
鹿児島女子短期大学	学長補佐(教務担当)	
鹿児島工業高等専門学校	副校長(教務主事)	
鹿児島県	雇用労政課長	
(公社)鹿児島県観光連盟	事務局次長	
鹿児島県農業協同組合中央会	総合対策部長	
鹿児島県漁業協同組合連合会	参事	
鹿児島県商工会議所連合会	事務局長	
鹿児島県中小企業団体中央会	総務企画課長兼組織振興課長	

平成 27 年度事業実施計画

1 鹿児島大学

(1) 事業実施体制の整備

鹿児島大学産学官連携推進センターに「COC+推進部門」を新設し、特任教授（教育プログラム担当）、特任助教（学生支援コーディネーター）、COC+推進コーディネーターをはじめとするスタッフの配置を行う。

(2) 地元定着促進協議等の設置及び開催

学卒者地元定着促進協議会を数回開催し、地元就職率向上に向けた地域課題の把握・改善方策の検討並びにインターンシップ実施計画の整備充実について事業協働機関と協議する。

(3) 教育プログラム開発委員会等の設置及び開催

COC+教育プログラム開発委員会等を開催し、本補助事業の教育プログラムに係る指針を策定するとともに、就職支援策やインターンシップのあり方について検討する。

(4) キャリア教育の整備充実

「COC+かごしまキャリア教育プログラム」に係る「地域就業キャリア・デザイン」の平成 28 年度開講に向けた検討を行い、実施内容を確定する。

(5) 教育プログラム実施に必要な教育環境整備

「COC+かごしまキャリア教育プログラム」等の実施に向け、アクティブ・ラーニング対応等の教育環境整備を行う。

(6) インターンシッププログラムの検討及び開発並びに就職支援の整備充実

地元定着促進につながる就職支援策やインターンシップ拡充について検討を行う。

(7) アンケート調査等の実施

県内雇用・経済動向、就職や企業立地・誘致・起業に関する調査の方法等について検討し、アンケート調査を実施する。

(8) 本補助事業の広報基盤整備及び広報

本補助事業の広報として、キックオフシンポジウムの開催、パンフレットの作成、ホームページの制作及び事業報告書を作成する。

(9) 学内・外部評価委員会の設置等

外部評価委員会を設置し、平成 27 年度事業活動について評価願う。

2 鹿屋体育大学

(1) 検討会議の開催

キャリア形成支援室で地元企業や自治体と連携し、地元インターンシップ実施計画及び地元就職率向上に係る実施計画について検討会議を開催する。

※検討会議メンバー案 1回10名程度を招へいして会議を行う予定

学外：鹿児島県雇用労政課、観光課、大隅地域振興局、鹿屋市商工観光課、鹿屋市商工会議所、鹿屋市青年会議所、垂水市、大崎町、志布志市、南大隅町、錦江町、ハローワークかのや、鹿屋市内企業（7社程度）など

学内：キャリア形成支援室員、キャリア支援係

3 鹿児島国際大学

(1) 事業実施体制の整備

産学官地域連携センター内にCOC推進室を新設しCOC+およびCOC関連事務を開始する。COC+推進副コーディネーターおよび事務補助員を雇用する。

(2) 学内委員会等の設置及び開催

「地域人材育成委員会」および「教育プログラム開発委員会」を設置し、委員会を実施する。

(3) 教育プログラム等の作成

平成28年度実施新カリキュラムに基づき、「地域人材育成プログラム」、「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」の教育プログラム科目のシラバス作成や履修要項等を作成し、学生が混乱なく履修できるようにする。両教育プログラムの学内・外での周知を図る。

(4) 新規事業開拓等の支援

事業協働機関と連携した新規事業開拓のための支援を行う。他県の視察や地方公共団体等との協定書を作成する。新規海外インターンシップ先「香港」開拓を含む、国内外インターンシップ・フィールドワークの開拓及び実施を行う。

(5) 本補助事業の情報共有および広報

ホームページを開設する。取組と成果を逐次報告・公表し、事業協働機関とは常に情報の共有化を図る。

(6) 学生のPDCA活動の実施

Web キャリア・ポートフォリオを活用し、学生のPDCA活動を実施する。

(7) 学内・外部評価委員会の設置等

学内・学外評価委員会を設置し、評価を受ける。

- (8) 報告会の開催および報告書の配布
事業報告会を開催する。事業報告書を作成し、配布する。

4 志學館大学

- (1) 事業実施体制の整備
キャリア・サポーターを採用し、学卒者の地元企業等への定着をより一層進めるため、就職相談・面接練習・キャリア研修の強化を図る。
- (2) 事業推進会議の開催
・COC+事業推進会議を実施し、当事業の内容と今後の進め方について共有し検討する。
・当事業の年次報告と成果の検証、次年度の準備を行う。
- (3) 産官学連携・地域協働
・コーディネーターを活用し、地元鹿児島の特性を活かした産官学連携や地域協働によるインターンシップ受入先・就職先・PBL等の新規開拓、カリキュラム改善・開発の可能性を探る。
・事業協働機関との情報交換を行う。
- (4) 進路支援
・「経営者と語る会」や「模擬面接会」、「キャリアシンポジウム・座談会」、各種セミナーなど、進路支援プログラムについて拡充を検討しながら事業を実施する。
- (5) 設備備品の整備
・設備備品を購入・配置し、進路相談や討議面接練習、キャリア開発ワーク、情報収集
・発信等を充実させる。

5 第一工業大学

- (1) 地域と連携した講座・講習会及び実習等の開催
・霧島市と連携した地域住民に対する学生参加型防災意識向上市民講座を検討
・霧島市と連携した地域企業に対する防災技術講習会を検討
・地域住民に対する学生参加型防災意識向上市民講座の開催
・観光ホテル・旅館業を主な対象とした地域企業に対する防災技術講習会を開催
・学生主体による簡易耐震診断の実習実施
- (2) 植物バイオシステムコースを核とした農業の6次産業化の検討
・平成28年度自然環境工学科に新設される植物バイオシステムコースの活用検討
(カリキュラム編成含む)

6 鹿児島県立短期大学

(1) 地元企業との連携

- ・進路状況保護者説明会における地元企業状況説明
- ・「就活パネル・ディスカッション」における地元企業人事担当者との交流機会の学生への提供
- ・地元新聞社記者による鹿児島県内の経済状況や地元企業の活動等の情報収集ツールとしての新聞の活用方策の解説
- ・学生委員会におけるこれまでの地元就職学生の進路に関する分析及び地元就職支援方策の検討

7 鹿児島女子短期大学

(1) 事業推進体制の整備

- ・地域連携センターにCOC+コーディネーターを雇用し、地域連携センターに事務補佐員を雇用する。

(2) 「すこやか教育」、「すこやか生活」、「すこやか研究」の継続的实施とCOC+活動への接続の検討

- ・地域連携センター（COC委員会）を中心に、「すこやかLife支援プロジェクトin鹿児島」を推進し、平成28年度計画を策定する（インターンシップ・産官学連携の拡充、効果的広報など）。

(3) 外部評価委員会の開催

- ・COC活動外部評価委員会を開催し、27年度の取組状況について評価を受ける。また、COC+活動についても検討し、提言を得る。

(4) すこやかLife支援プロジェクト委員会および地域連携協議会の開催

- ・地域連携協議会を開催し、28年度計画を決定する。

(5) 地元定着促進プランの策定

- ・COC委員会、入試・学生募集部会、就職・進路指導部会、運営会議、学生支援課が協働してプランを検討する。

8 鹿児島工業高等専門学校

(1) 事業推進体制の整備

- ・本事業に関する地域企業と自治体とのコーディネート及び事務補佐業務のコーディネーターを採用する。

(2) 地方創生会議の開催

- ・産学官の地方創生会議を4回開催し、自治体・地域企業・地域団体等で補助事業の具体的な展開の方策を検討する。

(3) アンケート調査の実施

- ・地域企業への理解度と地域企業への就職に対する考え方を測るアンケートを本校学生及びその保護者に実施する。

(4) 地域企業との連携

- ・本校学生に対し地域企業の理解を深めるための工場見学と体験学習を行う。
- ・本校教職員に対し地域企業の理解を深めるための企業講演や工場見学を行う。
- ・本校学生に対し地域企業の理解を深めるための特別講義を行う。

(5) 広報

- ・本事業を対外的に広報するホームページを作成する。

(6) 評価

- ・地域企業の特別講義や工場見学等を実施したことを基に、評価会議を1回開催する。

(5) キックオフシンポジウム



地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

食と観光で世界を魅了する 「かごしま」の地元定着促進プログラム キックオフ シンポジウム

2016. 3. 7 月 13:00~16:40

【会場】東急REIホテル2F

一般入場無料100名

プログラム

- 12:30~13:00 受付
13:00~13:20 開会挨拶
鹿児島大学
鹿児島県
文部科学省
13:30~13:50 事業概要説明
13:50~14:50 特別講演
講師 小林浩氏 リクルート進学総研 所長
休憩
15:00~16:30 パネルディスカッション
テーマ 「地方創生と高等教育機関の役割」
16:30~16:40 学卒者地元定着促進協議会メンバー紹介
16:40 閉会
17:10~ 情報交換会(事前申し込みが必要です)

会場アクセス

JR鹿児島中央駅より徒歩5分
市電高見橋電停前



主催：かごしま「学卒者地元定着促進協議会」

連絡先：鹿児島大学産学官連携推進センターCOC+推進部門

電話：099-285-6487 FAX：099-285-8495

E-mail：plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp



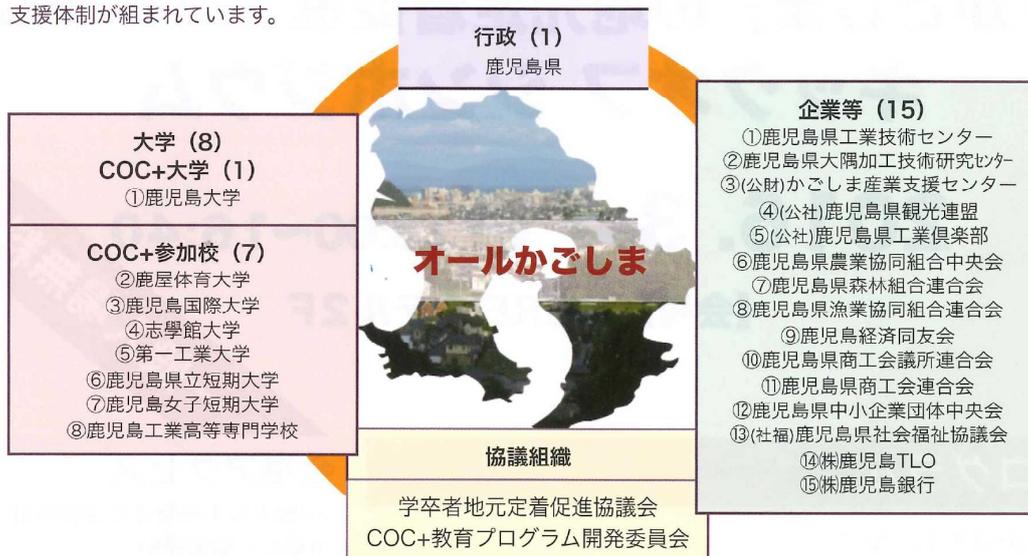
オールかごしまで進めるCOC+事業

COC+のミッション

学卒者の地元就業率を高める

7.5%増 (平成26年度 54.0%→平成31年度 61.5%)

鹿児島大学では、文部科学省が実施するH27年度：地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に採用されました。この事業は、鹿児島県における人口の流出を食い止め地域の持続的活性化を図るため、県内の8高等教育機関が共同して卒業生の鹿児島県内への就職率を向上させることを目的としています。この目的を達成するために、鹿児島県と県内の産業界を代表する各組織が協力し、オールかごしまで支援体制が組まれています。



情報交換会のお知らせ

申込み締め切り2016年2月29日（月）

シンポジウム終了後、引き続き情報交換会を行います。多数のご参加をお待ちしています。
会場 東急REIホテル2F 開始 17:10～19:30 会費：3,000円
出席の返事は下記FAX用紙をご利用ください。

FAX申し込み用紙 FAX番号099-285-8495

住所連絡先	〒		シンポジウム	情報交換会
	電話 () -			
	FAX () -		参加は○ 不参加は×	参加は○ 不参加は×
	E-mail			
参加者	氏名	所属・役職		
備考				

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 ～地(知)の拠点COCプラス～



平成27年度予定額 44億円[新規](旧COC事業平成26年度予算額 34億円)

【背景・課題】

『人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる』という負のスパイラルに陥ることが危惧されている。
地方/東京の経済格差拡大が、東京への一極集中と若者の地方からの流出を招いている。

【事業概要】

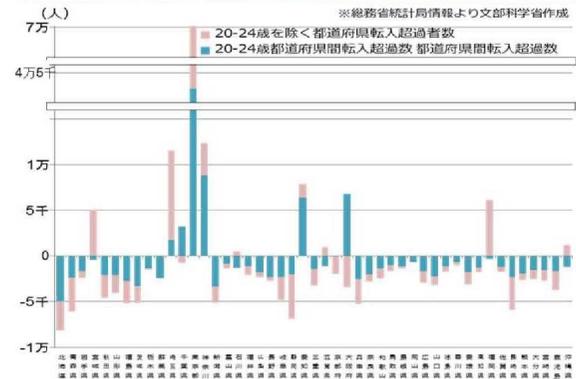
地方の大学 … 地域の自治体や中小企業等と協働し、**地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上に関する計画を策定**

東京等の大学 … **地方の大学や地方公共団体・中小企業等と協働し**、地方の魅力向上に資する計画を策定

- 大学が、地域の各種機関と協働し、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに**地域が求める人材を育成するための教育改革を実行**
- **COC+推進コーディネーターを配置し、事業協働地域の連携強化や取組の進捗を管理**

⇒ 事業協働機関が設定した目標達成のため、大学力（教育・研究・社会貢献）を結集

最初の就職時「20～24歳」及び「20～24歳」以外における人口移動



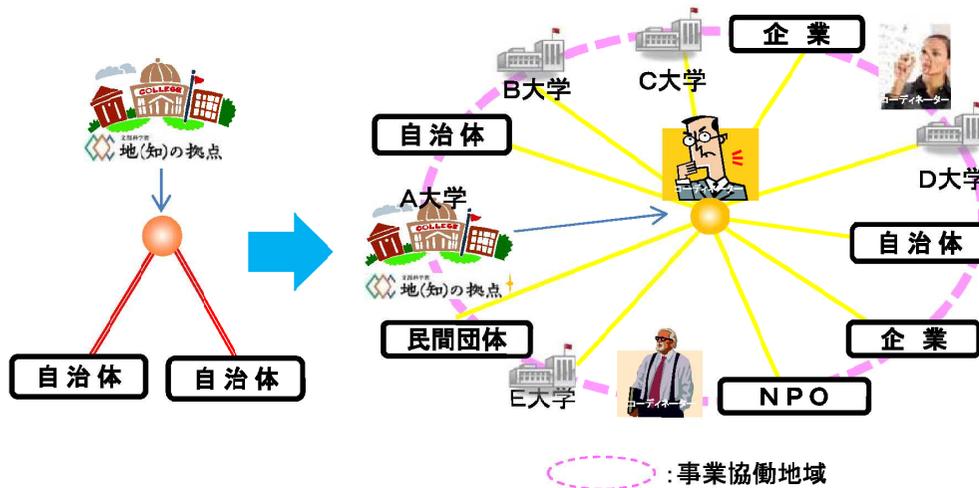
地元就職を希望しない理由

- | | |
|-------------------|-------|
| 1位 志望する企業がないから | 35.2% |
| 2位 都会の方が便利だから | 32.6% |
| 3位 地域にとらわれず働きたいから | 31.6% |

※「2016年マシダ大学学生シニア地元就職に関する調査」本設問回答数1,322

【COCからCOCへ】

COC+大学と事業協働地域の機関が協働し、地域が求める人材を育成し、若年層の地元定着を推進



①事業協働地域の産業活性化、人口集積を推進するため、大学群、自治体、企業等の課題（ニーズ）と資源（シーズ）の分析

②①を踏まえた雇用創出・就職率向上の目標値設定

③地域が求める人材養成のための教育プログラムを実施するために必要な人的・物的資源の把握

④教育プログラムの構築・実施

【大学】

- 地域特性の理解（地域志向科目の全学必修）
- 専門的知識の修得と地域をフィールドとする徹底した課題解決型学修による地域理解力と課題発見・解決能力の修得等

【地方公共団体・企業等】

- 実務家教員の派遣
- 財政支援
- フィールドワークやインターンシップ、PBL等を実施するための場の提供等

【成果】

- ・ 事業協働地域における雇用創出
 - ・ 事業協働地域への就職率向上
- ⇒ 若年層人口の東京一極集中の解消

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム 概念図

鹿児島県内学卒者数

86.4%

の学生が所属する8大学

地域
特性

日本有数の食料基地
(農林畜産、水産)



世界を魅了する観光資源
(自然、歴史、文化、食)

最終目標
地元雇用
61.5% 1,855人

COC+大学

①鹿児島大学

(H26年度COC認定校)

事業コンセプト【1】 地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる**教育改革**の推進

総合大学のスケールメリットを活かす学部横断的キャリア教育／鹿児島県内の大学等による協働教育体制の構築／地域ニーズの的確な把握と教育プログラム構築／教員のFD体制構築と学生の就業力強化／地域志向マインドの養成／インターンシップ

COC+参加校

- ②鹿屋体育大学
- ③鹿児島国際大学
(H27COC認定校)
- ④志学館大学
- ⑤第一工業大学
- ⑥鹿児島女子短期大学
- ⑦鹿児島県立短期大学
- ⑧鹿児島工業高等専門学校

事業コンセプト【2】 参加大学の知と地域の特色を活かした**新規雇用創出と既存雇用拡大**

地域特性を活かした新産業創出(食・健康とバイオマスエネルギー、観光と環境保全)／地元企業が求める大学シーズの利活用／企業経営者、起業家による事業立案能力トレーニング／COC+推進コーディネータ配置／分野別就業力強化

事業コンセプト【3】 地元就業率向上と持続的定着につながる**事業協働機関の連携強化**

地元企業の魅力を学生に伝える体験型、座学による講座／地元就職支援体制構築／地元就業者に対する支援体制／生涯学習の機会提供と相談窓口の整備／産業横断的に必要とされる地域理解のための基礎力強化

地域特性を活かす新産業創出

農林畜産業
と水産業を
活性化する
**食・健康と
バイオマスエ
ネルギー**

自然、歴史、
文化、食を
活かした
**観光と
環境保全**

学卒者地元定着促進協議会

COC+教育プログラム開発委員会

産学官
連携推進
センター

COC+
推進
部門

かごしま
COC
センター

産学
連携

就業
ニーズ

地域
ニーズ

プ
ロ
グ
ラ
ム
開
発

かごしまキャリア教育プログラム

地域志向学生 **150人受講**

- 4年次 ・地域キャリア修了演習
- ・地域就業インターンシップ
(事前・事後指導)
- 1～3年次 ・地域マインド科目
・地域就業力科目
- 1年次 ・地域就業キャリアデザイン

育
成

学士力(汎用的能力)を
備えた地域職業人材を
就業

大学等以外の事業協働機関

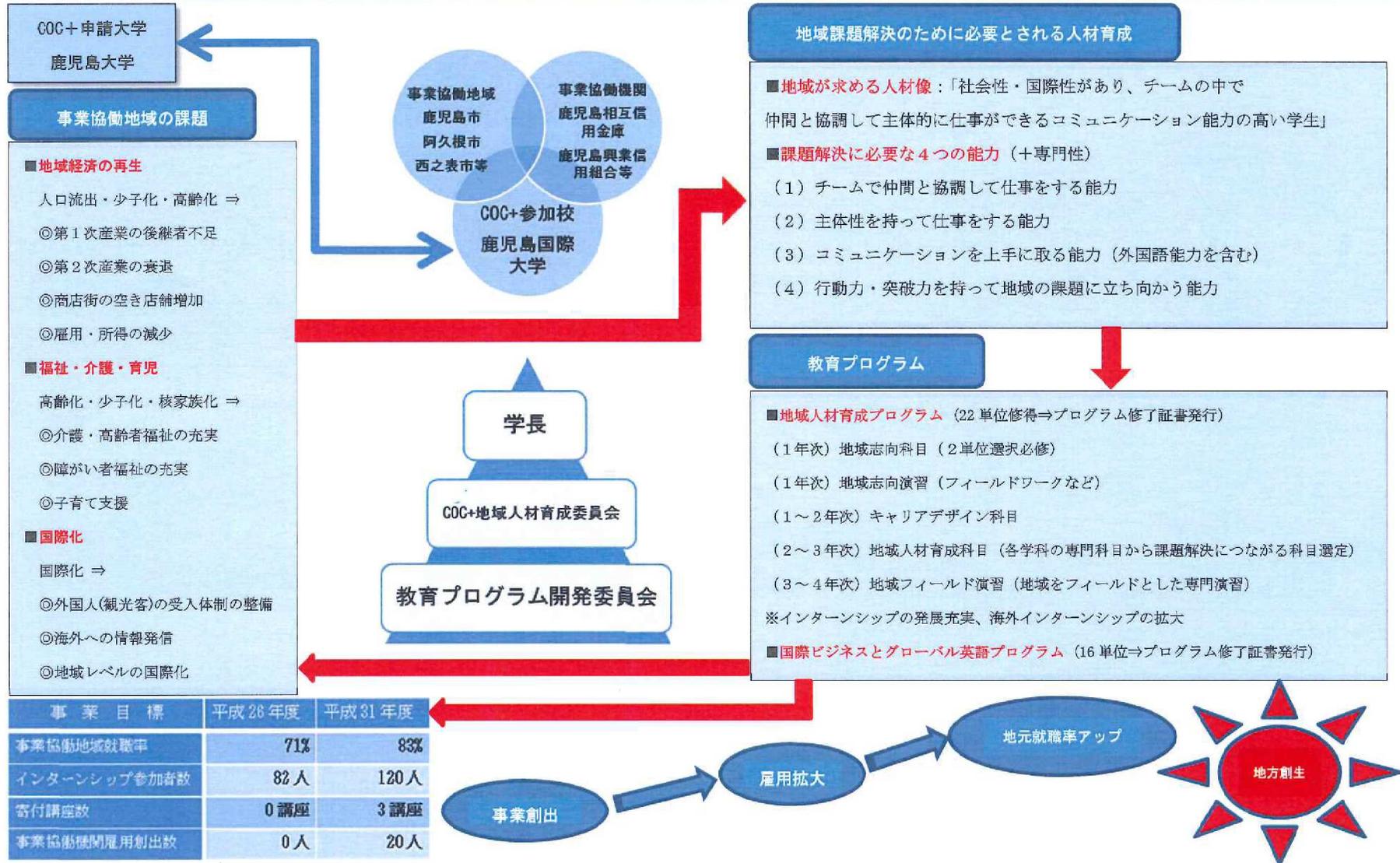
食産業や観光産業など12機関
／鹿児島県など4機関

新規雇用創出!
27人増

かごしま

既存雇用拡大!
7.5%増 180人増

事業名：フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム概念図



3 COC 認定校としての取組

(1) 産学官連携に関する協定書の締結

西之表市・鹿児島相互信用金庫・南大隅町

西之表市と鹿児島国際大学との包括連携に関する協定書

西之表市と鹿児島国際大学との
包括連携に関する協定締結式



西之表市



学校法人津曲学園
鹿児島国際大学

西之表市（以下「市」という。）と学校法人津曲学園鹿児島国際大学（以下「大
学」という。）とは、次のとおり包括連携に関する協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、市と大学が、包括的な連携の下、それぞれの資源や機能等
の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展に寄与する
ことを目的とする。

（連携及び協力する事項）

第2条 市と大学は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について連携
及び協力する。

- (1) 地域の振興に関すること
- (2) 国際化に関すること
- (3) 健康・福祉の充実に関すること
- (4) その他両者が協議して必要と認める事項

（連絡調整及び定期的な協議）

第3条 市と大学は、この協定による連携の円滑な推進を図るため、それぞれ連
絡調整に関する担当部署を定めるとともに、定期的に協議を実施し、連携事業
の企画立案、進捗管理等も行うものとする。

（有効期間）

第4条 この協定の有効期間は、締結の日から起算して3年間とする。ただし、
協定の有効期間の満了の日の30日前までに、市又は大学から特段の申立てがな
い場合は、有効期間満了の日の翌日から更に3年間有効とする。その後におい
てもまた同様とする。

（疑義の処理）

第5条 この協定に定める事項について疑義が生じた場合又は本協定に定め
のい事項について必要がある場合は、両者が協議して定めるものとする。

上記の協定締結を証するため、本協定書2通を作成し、両者署名押印して、各
1通を保有するものとする。

平成27年11月18日

市 西之表市西之表7612

西之表市長



平成27年11月18日

大学 鹿児島市坂之上八丁目34番1号
学校法人津曲学園 鹿児島国際大学
学長



西之表市地域活性化共同事業に関する覚書

西之表市（以下「甲」という。）、鹿児島相互信用金庫（以下「乙」という。）と鹿児島国際大学（以下「丙」という。）は、西之表市の地域活性化に向けた共同事業以下「地域活性化共同事業」という）の実施に関し、次の事項について覚書を締結する。

（地域活性化共同事業の目的）

第1条 地域活性化共同事業は、乙および丙が有する人的資源、技術及び情報を活用し、甲に対し、西之表市の地域活性化に向けた支援や提言を行うことを目的とする。

（地域活性化共同事業の内容）

第2条 乙及び丙は、互いに協力し、次の各号に掲げる事項を共同で行う。

(1) 西之表市の地域振興、国際化、健康・福祉・福祉に関する支援活動や調査等の実施

(2) 調査等の結果を取りまとめた報告書の作成及び甲への提供

(3) その他地域活性化共同事業に付随する事項

（地域活性化共同事業の実施期間）

第3条 地域活性化共同事業の実施期間は、締結の日から起算して3年間とする。ただし、覚書の有効期間の満了の日の30日前までに、甲、乙及び丙から特段の申立てがない場合は、有効期間満了の日の翌日から更に3年間で有効とする。その後においてもまた同様とする。

（情報の利用及び提供の制限）

第4条 甲、乙及び丙は、次の各号のいずれかに該当する場合は、地域活性化共同事業の実施に関し互いに取得した情報（以下、「取得情報」という。）を、互いの事前の同意なしに利用目的以外のために利用し、又は提供してはならない。

(1) 取得情報が既に公知又は、提供を受けるものが既に保有しているものである場合

(2) 取得情報が互いの責によらず公知となった場合

(3) 取得情報が秘密保持義務を負うことなく、第三者から適法に入手しうるものである場合

(4) 地域活性化共同事業に関与する互いの弁護士、公認会計士、税理士及びその職務上知り得た秘密を保持する法令上の義務を負う専門家に對して、地域活性化共同事業に関する検討を行わせるために必要な範囲で取得情報を開示する場合

(5) 法律、政令、規則、条例上の要請又は官公署の命令等により取得情報の開示を義務付けられた場合

（損失補償等の責任）

第5条 乙及び丙は、報告書に記載する提言の正確性、完全性及び妥当性及び甲が提言を実施した損失補償等について、一切の責任を負わない。

（その他協議事項）

第6条 この覚書に定めのない事項又は疑義が生じた事項については、甲、乙及び丙は誠意をもって協議する。

この覚書の締結を証するため、本書3通を作成し、甲、乙及び丙それぞれ署名の上、各自1通を保有する。

平成27年11月18日

甲 西之表市西之表7612

西之表市長

長野 大



乙 鹿児島市泉町2番3号

鹿児島相互信用金庫

代表理事

谷陽 俊一



丙 鹿児島市坂之上八丁目34番1号

学校法人津曲学園 鹿児島国際大学

学長

津曲 貞利



南大隅町と鹿児島国際大学との 包括連携に関する協定締結式



南大隅町



学校法人津曲学園
鹿児島国際大学

南大隅町と鹿児島国際大学との包括連携に関する協定書

南大隅町（以下「町」という。）と学校法人津曲学園鹿児島国際大学（以下「大学」という。）とは、次のとおり包括連携に関する協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、町と大学が、包括的な連携の下、それぞれの資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

（連携及び協力する事項）

第2条 町と大学は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について連携及び協力する。

- (1) 地域の振興に関すること
- (2) 観光の振興に関すること
- (3) 国際化に関すること
- (4) 健康・福祉の充実に関すること
- (5) その他両者が協議して必要と認める事項

（連絡調整及び定期的な協議）

第3条 町と大学は、この協定による連携の円滑な推進を図るため、それぞれ連絡調整に関する担当部署を定めるとともに、定期的に協議を実施し、連携事業の企画立案、進捗管理等を行うものとする。

（有効期間）

第4条 この協定の有効期間は、締結の日から起算して3年間とする。ただし、協定の有効期間の満了の日の30日前までに、町又は大学から特段の申立てがない場合は、有効期間満了の日の翌日から更に3年間有効とする。その後においてもまた同様とする。

（疑義の処理）

第5条 この協定に定める事項について疑義が生じた場合は本協定に定めのない事項について必要がある場合は、両者が協議して定めるものとする。

上記の協定締結を証するため、本協定書2通を作成し、両者署名押印して、各1通を保有するものとする。

平成28年2月20日

町 肝属郡南大隅町根占川北226番地
南大隅町長

森田 俊利



平成28年2月20日

大学 鹿児島市坂之上八丁目34番1号
学校法人津曲学園 鹿児島国際大学
学長

津曲 貞利



(2) 西之表市留学生モニターツアー

平成28年3月15日
産学官地域連携センター

1. 目的 種子島の観光地視察や地域交流を通して、種子島の地域活性化、観光振興（特に外国人観光客）に関する留学生からの提言を行う。
2. 日程 平成28年3月10日（木）～3月13日（日）までの3泊4日
3. 出張先 種子島各所（別紙日程表添付）
4. 活動報告（概要）

参加者 留学生13名（中国12名、台湾1名）、引率1名

- ・西之表市役所の方々、地域の方々は少子高齢化・地域活性化についてかなりの危機感を持ってのぞまれている。その課題解決のための方策を色々考えられていて、今回のような活動もその一環として行われている。今回行われたどの活動においても、西之表市役所（主に観光課）の方の非常に細かい心配りがあった。活動の中で触れ合った地域の方（月窓亭職員、食生活改善推進委員、各校区長、中割地区住民の方々）も、とてもあたたかい対応をしてくださった。それら種子島の方々のあたたかさが一番印象に残った。これは参加した留学生の多くも口にしていた。
- ・留学生は、1年生から大学院生まで様々な学年の13人が集まった。全員日本語の聞き取り、会話ができるので助かった。活動時間に一度も遅れることなく、ミーティングや地域の方とのふれあいの時も積極的に活動してくれた。生活習慣の違いからか畳の上の布団に慣れず、良く眠れなかった留学生もいたようであるが、そのことについても不平不満を一切口にしなかった。今回の活動は大成功に終わったと言っていいと思うが、全て留学生、種子島の方々のおかげである。感謝したい。
- ・この活動を行うにあたり、最初に留学生を15名選出（2名は不参加となった）してくださったのは国際交流係の王さんである。今回の話が来て、活動計画を立て始めたのが2月に入ってからであり、一番苦労したのが留学生と連絡を取ることだった（留学生は帰国していたので）。最後にきちんと連絡が取れたのが前日の3月9日になってからという留学生も複数名いた。ただし、今回は13名中10名が国際交流会館に住んでいることもあり、国際交流会館の池上さんや、すでに鹿児島に帰国している留学生が連絡を取ってくれるなどの協力をしてくれたので非常に助かった。王さんと池上さんにも深く感謝したい。

このモニターツアーは来年度以降も続いていく可能性がある。西之表市役所の方の話では、留学生だけでなく本学一般学生の意見を聞くような機会もつukれないものかと考えておられるようであった。今回は留学生の人徳や、国際交流会館に住んでいる留学生が多かったということに助けられたが、留学生の活動を考える時には早くから計画に入れ、留学生が長期休暇で帰国する前に連絡できるようにしておきたい。西之表市役所の方にもその点について話げできた。

- 先ほども記述した通り、種子島（西之表市役所）の方々には危機感を持ってこれからの種子島の事を考えようといわれている。そのために東京大学であるとか、東北大学、京都大学、鹿児島県内の複数の大学と連携して活動を行っているということである。その辺りについても西之表市役所経済観光課の松元課長と話をしたが、どこでも手当たり次第という事ではなく分野（医療・教育など）に応じて、それぞれの機関（大学）と連携し活動しているということであった。

その中でも本学に対しては、種子島の近くの大学として連絡も取りやすく、いろいろな活動を行えるのではないかと大いに期待しているということであった。特に、地域の活性化や福祉という事で力を貸してもらいたいとのこと。それに対して、やはり大学の財産は人材であることを返している。西之表市とは昨年11月に包括連携協定（鹿児島相互信用金庫を含む）を結んだこともあり、教職員・学生（留学生含む）のできること、そのためにお互い（西之表市・本学）どのような連携が取れるか考えていくのが大切であるということでも話をした。地域に根差した大学と言えるような活動が、種子島（西之表市）とならできるのではないかと考えることにできた4日間であった。

（文責：北山）



浦田海水浴場



中割校区での地域交流会



郷土料理体験



陶芸体験



意見交換会

種子島留学生モニターツアー参加者名簿

鹿児島国際大学
平成28年3月8日

平成28年3月10日（木）～13日（日） 3泊4日

No.	氏名	学科 学年	国籍	性別	宿泊グループ		
					3/10	3/11	3/12
1	董妍妍 ドン・イエンイエン	国際文化学科 3年	中国	女	B	B	B
2	鳳浩然 フェン・ハオラン	国際文化学科 3年	中国	男	A	A	A
3	王亜恵 ワン・ヤーホウイ	経営学科 2年	中国	女	B	B	C
4	侯雨萌 ホウ・ユーメン	国際文化専攻 1年	中国	男	A	A	A
5	蔡思逸 ツァイ・スーイー	国際文化学科 4年	中国	女	B	B	C
6	頼曉東 ライ・シャオドン	国際文化学科 4年	中国	女	B	D	C
7	周知臨 シュウ・チリン	国際文化専攻 3年	中国	男	A	A	A
8	頼冠勳 ライ・グアンシュン	経営学科 (交換留学生)	台湾	女	B	C	B
9	張曦 チャン・シー	国際文化学科 3年	中国	女	B	C	B
10	王俊文 ワン・ジュンウエン	国際文化学科 3年	中国	女	B	C	B
11	白一格 バイ・イーゲ	国際文化学科 3年	中国	女	B	D	C
12	劉曉晨 リュウ・シャオチェン	国際文化学科 2年	中国	女	B	D	C
13	謝鵬 シェー・ペン	地域経済政策専攻 2年	中国	男	A	A	A

(事業者記入欄)

モニターツアーアンケート

事業名	
対象者	
事業期間	月 日 ~ 月 日

この度は、視察にご参加頂き、誠に有難うございました。種子島への誘客に向けて、皆様のご意見を頂戴出来れば幸いです。

※以下の項目にお答えください

大学名		学部・研究科	
氏名		出身国等	
性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	年齢	才

1. 来日して何年ですか？

- 1年未満 1年～2年 2年～3年 3年～4年 4年～5年 5年以上

2. 種子島を知っていましたか？ はい いいえ

⇒「はい」と答えた方。種子島のイメージは何ですか？（複数回答可）

- 人が親切 ホスピタリティあふれるサービス 田舎 自然 海 サーフィン
 農業 サトウキビ 安納いも 旅館/ホテル 離島 ロケット 鉄砲伝来の地
 難破船 治安の良さ 物価の高さ 特にない
 その他 ()

3. 種子島に訪れたことがありましたか？ はい いいえ

⇒「はい」と答えた方。何回ですか？

- 1回 2回 3回 4回 5回以上

4. あなたが利用しているSNSサイトは何ですか？また、このツアーの間に種子島の話題を情報発信していただいた回数を教えてください。（複数回答可）

- facebook (回) ライン (回) Twitter (回) ブログ (回)
 Instagram (回) その他 (、 回)

5. 今回のツアーで良かった内容は何ですか？（複数回答可）

- 種子島宇宙センター（施設案内ツアー） 鉄砲館 月窓亭 郷土料理体験 浦田海水浴場
 喜志鹿崎灯台 奥神社・あこうの木 ヘゴ自生群落 陶芸体験 地元地域との交流
 千座の岩屋 民泊体験 宿泊施設 意見交換会
 その他 ()

⇒その理由は？

⇒本市では、北部の観光地開発に力を入れていく予定です。今回のツアーで回った北部の観光地の中で良かった順番に順位付けをお願いします。

- () 浦田海水浴場 () 喜志鹿崎灯台 () 奥神社・あこうの木 () ヘゴ自生群落

6. 今回のツアーで悪かった内容は何ですか？（複数回答可）

- 種子島宇宙センター（施設案内ツアー） 鉄砲館 月窓亭 郷土料理体験 浦田海水浴場
 喜志鹿崎灯台 奥神社・あこうの木 ヘゴ自生群落 陶芸体験 地元地域との交流
 千座の岩屋 民泊体験 宿泊施設 意見交換会
 その他 ()

モニターツアー2015（日本語基本）

⇒特産品の「焼酎」は美味しかったですか？ ……試飲した人のお答えください。

- 非常に美味しかった 美味しかった どちらともいえない 不味かった かなり不味かった

感想は？

8. 今回のツアーはいかがでしたか？

- 非常に満足 満足 どちらともいえない 不満足 かなり不満足

⇒その理由は？

9. 今後、また種子島を訪れたいと思いますか？

- 必ず訪れたい 訪れたい どちらともいえない 訪れたくない 絶対訪れたくない

⇒その理由は？

10. 種子島の観光地としての評価を教えてください

- かなり高い やや高い あまり高くない 低い

⇒その理由となる項目を教えてください（複数回答可）

- ホスピタリティ 歴史・文化 自然 食事 温泉 宿泊施設 レジャー・ショッピング 物価
 その他（ ）

11. あなたはこれまでに種子島以外の離島を訪れたことがありますか？

- どこも訪れたことがない 屋久島（鹿児島） 奄美大島（鹿児島） 佐渡島（新潟） 大島（東京）
 壱岐島（長崎） 対馬島（長崎） 宮古島（沖縄） 石垣島（沖縄）
 その他（具体的に： ）

12. 旅行者が種子島を快適に観光するために改善すべきことは何ですか？（複数回答可）

- 目的地までの公共交通の経路情報の入手 公共交通の利用方法（乗り方）、利用料金情報の入手
 公共交通の乗り物情報の入手 飲食店情報の入手 無料公衆無線 LAN 環境 両替店情報の入手
 クレジットカード利用できる店情報の入手 地図・パンフレットの入手 地元の人のコミュニケーション能力
 その他（ ）

13. 旅行をする際に必要な情報を何で得ますか？ 具体的な媒体名も記入してください（複数回答可）

- 情報サイト（ ） ブログ（ ） Twitter（ ）
 facebook（ ） 旅行ガイドブック（ ） 旅行雑誌（ ）
 テレビ（ ） 新聞（ ） 書籍（ ） 知人、友人（口コミ）
 その他（ ）

14. 今回のツアーの感想をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。また、種子島でお会いできるのを楽しみにしています。

(3) 海外インターンシップ開拓調査 (香港)

(第1回目)

1. 目的

本事業の教育プログラムは「地域人材育成プログラム」と「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」で構成されている。「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」は、英語とビジネスに強い人材を育成し、彼らが鹿児島県内の自治体・企業等に就職して外国人観光客の受入や地元企業の海外進出(貿易)に取り組むことで、地域の発展に寄与することを目的としている。今回、英語が公用語で鹿児島と定期航空便がある香港を、大連・台湾・シンガポールに続く新たなインターンシップ先として選び、受入先の新規開拓に取り組んだ。

2. 日程

出発 2015(平成27)年12月3日(木)から
帰着 2015(平成27)年12月6日(日)まで(4日間)

3. 出張先

香港

4. 訪問者

迫田耕一産学官地域連携センター次長、関博信産学官地域連携センター
COC推進室参事、留学生4名 以上計6名

5. 出張報告(概要)

下記日程の行動スケジュールの中で、視察先の上組(香港)有限公司、永旺(香港)百貨有限公司の2社に海外インターンシップ先としての受入について依頼を行った。

12月3日 (移動日)
12月4日 1班(迫田次長、留学生2名)
信金中金・ジェトロ香港 「香港経済セミナー」
若手異業種交流会 懇親会(昼食・立食形式)
(香港BNI会員等15名)
市内視察 香港開発地区視察
2班(関参事、留学生2名)
展示会(通訳手伝い) 10:00~19:00
中小企業展(World SME Expo.)
※ 鹿児島相互信用金庫がブース出展
1,2班: 交流会出席
香港在住関係者、信金中金関係者等

12月5日 1班（迫田次長、関参事、留学生2名）
展示会視察
流通視察（イオン香港）
2班（留学生2名）
展示会（通訳手伝い）10：00～17：00
※ 鹿児島相互信用金庫ブース

12月6日 （移動日）

（第2回目）

期 間：2016（平成28）年3月13日（日）～3月16日（水）
場 所：香港市内企業等
訪 問 者：大久保幸夫副学長、表正幸経済学部教授、関博信産学官地域連携
センター COC 推進室参事、今村憲一企画・国際課係長 以上4名

出張概要：

3月13日（日） 移動日（鹿児島⇒香港）

14：30 鹿児島空港に集合し、16：15発の直行便で出発し、19：20に香港国際空港に到着した。到着後、入国審査や荷物受取・外貨両替等を行い香港市内へ移動、21：30に宿舎（ベストウエスタンホテルコースウェイベイ）に到着。

3月14日（月） 企業等訪問・宿舎確認

8：30に宿舎を出発し、鹿児島県香港事務所（ホープウェルセンター／JETRO 香港内）を訪問、同事務所の林祐作所長と面談。内容は以下のとおり。

- ・昨年鹿児島大学から6名の学生が一週間香港の地元中小企業でインターンシップを行った。学生の宿舎は交通の便が良い MTR（香港の地下鉄）沿線近くの安価なホテルを利用した。
- ・鹿児島との関わりであれば、西原商會が考えられるが、業務内容がインターンシップに適しているかは不明。

今回の香港滞在日程について、かごしま香港クラブの溝口鉄一郎会長との面談を含めて林所長に連絡調整を図っていただくこととなった。

10：40、林所長に紹介された、学生用宿舎（ホテル）「九龍王子酒店（King's De Nathan）」を視察。溝口会長の紹介で鹿児島大学のインターンシップ時に利用したホテルであり、一部屋一泊495香港ドル（7400円程）であるが、ベッドが二つの部屋であるため、相部屋使用であれば学生一人あたりは3200円程となる模様。MTR の駅に程近く通勤に便利で、繁華街にあるため、食事・洗濯等学生の滞在生活上適した立地条件であった。

13:30、JTB 香港事務所を訪問、アウトバウンド営業部の西槇優氏と面談したが、日本の JTB とは独立した会社であり、香港事務所では即実務ができる人材以外は受入れが難しく、インターンシップ学生の受入れを行う余裕はないとのことであった。

14:30、イオン香港を訪問。食品部門の奥嶋収氏（以前香港ビジネスツアーで本学スタッフと面会）にお会いできたが、今回の件については明日、行政部副董事総経理の谷島英明氏からお話したいとのことで、明日15時の面談予定となった。

その後、林所長との連絡調整により、溝口会長との面談や企業訪問の予定が明日となり、18時頃宿舎へ帰着した。

3月15日（火） 企業等訪問

8:00に宿舎を出発し、9:00に信金中央金庫香港事務所の原田幸三所長、瀬戸仁志次席駐在員と面談。内容は以下のとおり。

- ・同事務所は、日本の信金が香港での事業展開をする際の拠点、あるいは日本の各企業の販路拡大や視察訪問時の支援活動を主としている。鹿児島相互信用金庫は今年5～6月頃香港に派遣予定。
- ・信用金庫からの研修社員を1カ月～1年間受け入れたことがあり、その際には“トレーニングビザ”が必要であった。ただし、対価を必要としない学生のインターンシップであれば、ビザは特に必要ないと思われる（ビザについては本学側で関係機関に後日確認）。
- ・香港は生活面では日本とさほど差がなく、太古地域等は日本の店舗が多く住みやすい。ただし不動産の値段は高い（賃貸の場合1カ月30万円程）。
- ・今後（鹿児島相互信用金庫を通じて）協力できることがあれば相談に乗りたい。

10:30、上組(香港)有限公司を訪問し、坂崎紀彦経理と面談。内容は以下のとおり。

- ・上組は物流を主業務として148年の歴史があり、香港では1985年から事業を行っている。事務所内に45名、倉庫部に20名程のスタッフがおり、内日本人は4名程。
- ・社内のコミュニケーションは必ずしも中国語ではなく、英語が主である。
- ・志布志は取引先としては小さいが（横浜・神戸が大きい）、志布志からの牛・豚・卵・イモ等畜農産品の輸入を行っており、香港のバイヤーへ配給している。
- ・学生のインターンシップ業務としては、接客、現場での作業、中国の事務所や港の視察等も含めて、物流全般のノウハウを学んでいただきたい。
- ・学生のビザについては、対価がつかない場合必要ないと思われるが、最近は当局の規制が厳しいので確認していただきたい。
- ・学生は男子・女子・留学生いずれでも構わない（最低2名でお願いした）。
- ・上層部へこれから確認していき、3月24日には大学へ回答をする。もし受入不可であった場合でも、業務見学等はお受けしたい。

12：30、香港鹿児島倶楽部の溝口鉄一郎会長、林所長と会食。談話内容は以下のとおり。なお、先方には大久保副学長から香港コースの計画概要（2週間全体8名）と今回の訪問状況（JTB 香港、上組香港、イオン香港）について説明された。

- ・溝口会長の自社（MRT 香港）でインターンシップを受け入れても良いが、他大学をみると1週間ぐらいが妥当ではないか？（大久保副学長より2週間をお願いしたい旨を伝えてある）
- ・インターンシップ先としては、大企業よりも、地元の中小企業をすすめたい。
- ・インターンシップ学生が香港に来た際には、香港中文大学の学生との交流の機会を設けたい。
- ・期間中香港で語学研修ができる可能性についても調べておく。
- ・今後の連絡は引き続き林所長を通じてお願いする。

15：00、イオン香港の谷島英明行政部副董事総経理（副社長）と面談。内容は以下のとおり。

- ・学生の言語能力はどれくらいか？（ビジネスレベルに満たず、むしろ外国語教育の一面もあると説明）
- ・イオン香港は13の店舗があり、日本での一事業部単位にあたる。当事務所には150名程のスタッフがあり、その内10名程が日本人。常に不特定多数の人間が出入りするため、（インターンシップ受入を行う場合）常時学生について監督指導することはできない。
- ・社内では半年ごとに1名の社員研修受入があるが、実務レベルには育たない（正直なところ、学生にお願いする業務がない）。単純作業では学生の海外就業体験として価値がなく、またバックヤードの業務は危険が伴う。
- ・日本の果物等は香港では人気がある。もし、今後「鹿児島フェア」のようなものが実施されれば、インターンシップの可能性もある。ただし、年間計画のため時期は不確定。
- ・インターンシップの時期が確定したところで、「鹿児島フェア」があるかどうかお尋ねいただきたい。もし同時期に計画があれば、受け入れる可能性はある。その場合も物産展の期間は1週間のため、それ以外の期間をどうするかという問題は残る。

訪問・面談後18時頃宿舎へ帰着した。

3月16日（水） 移動日（香港⇒宮崎⇒鹿児島）

8：30に宿舎を出発し香港空港へ移動、9：20に空港到着。出国手続の後11：05シンガ宮崎行の便で帰途に就いた。15：15宮崎空港到着、宮崎駅へ移動し JR で鹿児島へ帰着した。

(4) 地(知)の拠点シンポジウム

第4回生涯学習公開講座・地(知)の拠点(COC)シンポジウム

日時：平成28年2月4日(木) 13:30~16:00

会場：鹿児島国際大学4号館411教室

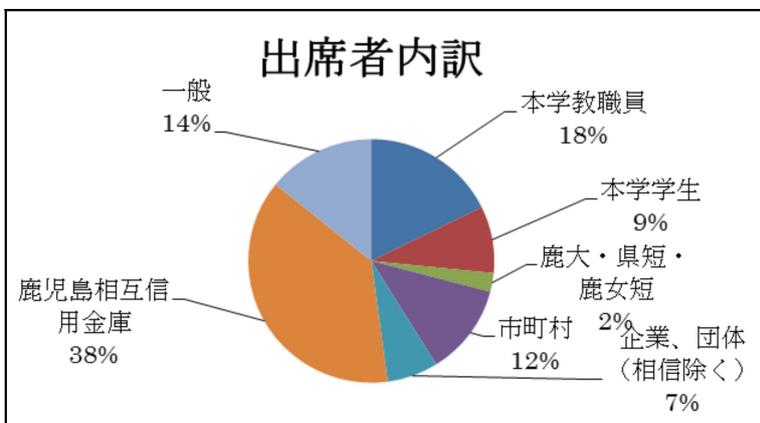
テーマ：『地方創生と地域活性化』

次第

1. 開会
2. 学長挨拶 13:30~13:40
3. 基調講演 13:40~15:00
 演題 「地方創生と大学、学生に期待すること」
 講師 樋渡 啓祐 氏(元佐賀県武雄市長 樋渡社中 Founder & CEO)
 (休憩 15:00~15:10)
4. パネルディスカッション 15:10~16:10
 「地方創生と地域活性化 ～阿久根市における事例を踏まえた地域活性化の模索～」
 コーディネーター： 副学長・産学官地域連携センター長 大久保 幸夫
 パネラー： 阿久根市長 西平良将 氏
 鹿児島相互信用金庫営業開発部課長 本田賢一 氏
 鹿児島国際大学 経済学部教授 菊地裕幸
5. 閉会

参加者数 282名

区分	出席
本学教職員	50人
本学学生	25人
鹿大・県短・鹿女短	7人
市町村	34人
企業、団体等(相信除く)	19人
鹿児島相互信用金庫	107人
一般	40人
合計	282人



(5) 南大隅町共同プロジェクト報告会・シンポジウム

南大隅町 包括連携協定調印式・共同研究プロジェクト報告会

開催日時： 平成28年2月20日（土）13：00～16：30

主催： 産学官地域連携センター、COC推進室、附置地域総合研究所

会場： 南大隅町役場

【調印式】

1. 開 会 13：00
2. 出席者（南大隅町） 南大隅町長 森田俊彦、副町長 白川順二ほか
（本学関係者） 学長 津曲貞利
副学長・産学官地域連携センター長 大久保幸夫
事務局長 岡田和憲
地域総合研究所長 高橋信行ほか
3. 協定の締結 「南大隅町と鹿児島国際大学との包括連携に関する協定書」
4. 閉 会 13：30

【報告会】

1. 開 会 14：00
2. 学長挨拶
3. 南大隅町長挨拶
4. 研究報告会：コーディネーター 地域総合研究所 所長 高橋信行
報告1 テーマ：過疎地域の福祉計画はいかにあるべきか
地域総合研究所 所長 高橋信行
報告2 テーマ：岬観光の現状
地域総合研究所 所員 吉田春生
報告3 テーマ：「次世代共生」下における農協の役割
地域総合研究所 所員 渡辺克司
報告4 テーマ：場所とホスピタリティ ―佐多地区の御崎祭りを事例に―
地域総合研究所 所員 武田篤志
報告5 テーマ：循環と創造 ―地域を支える経済の課題―
地域総合研究所 委託研究員 富澤拓志
報告6 テーマ：大隅の高校生の声を聴いて ―地域の担い手づくりに関連して―
地域総合研究所 所員 馬頭忠治、馬頭ゼミ生

(6) 鹿屋市シンポジウム



鹿児島国際大学附置地域総合研究所
鹿児島国際大学産学官地域連携センター
共同開催

文部科学省
地(知)の拠点
鹿児島国際大学COC認定校

鹿屋市シンポジウム

大隅の地域振興と地域福祉

日時 平成28年3月2日[水] [受付] 13:00~
[開会] 13:30~17:00

会場 鹿屋商工会議所 大ホール **参加無料**

※申込み締切日:平成28年2月24日(水)

シンポジウム内容

地(知)の拠点大学として、大隅の地域振興と地域福祉に資する報告を行う。平成26年~27年にかけて行ったプロジェクト研究「南大隅町を中心とした大隅半島地域の地域づくり(地域福祉を含む)と産業の育成」の成果と各種委託研究の成果(鹿屋市や南大隅町を対象にした)を通しこれからの大隅地域のあり方を展望する。

第1部 基調講演 (13:30~)

産学官地域連携センター長(副学長) 大久保 幸夫
演題:「鹿児島国際大学による地方創生推進事業について」

第2部 シンポジウム (14:30~)

コーディネーター:地域総合研究所 所長 高橋 信行

テーマ(1) 福祉計画と生活支援

シンポジスト:地域総合研究所 所長 高橋 信行

テーマ(2) 地域と高校の新しい形

シンポジスト:地域総合研究所 所員 馬頭 忠治

テーマ(3) 観光資源の活かし方—マーケティングと流通の視点から

シンポジスト:地域総合研究所 所員 吉田 春生

テーマ(4) TPPと大隅農業の未来

シンポジスト:地域総合研究所 所員 渡辺 克司

テーマ(5) 大隅の地域振興と再生可能エネルギー(日本ガス株式会社委託研究報告)

シンポジスト:地域総合研究所 委託研究員 黒瀬 郁二

ディスカッション:30分程度予定

総司会:地域総合研究所・産学官地域連携センター次長 迫田 耕一



主催:鹿児島国際大学附置地域総合研究所
鹿児島国際大学産学官地域連携センター

後援:鹿屋市、南大隅町、鹿屋商工会議所
社会福祉法人鹿屋市社会福祉協議会

お問い合わせ

鹿児島国際大学附置地域総合研究所
鹿児島国際大学産学官地域連携センター
〒891-0197 鹿児島市坂之上8-34-1
TEL:099-263-0735 FAX:099-261-3565

※申込みについては裏面の参加申込書に必要事項をご記入のうえ、FAXにてお申し込みください。

4 外部評価委員会 評価結果

【自己評価】

鹿児島国際大学 事業評価シート①(取組項目別)

[平成27年度]

1. 取組項目	「地(知)の拠点大学による地方創生事業」実施体制の構築・整備				
2. 取組内容	(1) 事業実施に向けた組織体制の構築と整備 (2) COC+参加校としての取組 (3) COC認定校としての取組				
3. 成果と課題	取組内容を踏まえ、該当年度の成果と次年度への展望(課題・改善策等)を記入 (成果) (1) 地域の中核(COC(Center of Community))的存在となる大学を支援する「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」において、本学はCOC+に参加すると同時に、「地(知)の拠点大学」に認定された。この事業の円滑な推進のために、平成27年11月に産学官地域連携センター内に「COC推進室」を新設し、COC+並びにCOC関連事務を開始した。 また、事業推進のために、事業協働地域の協議・意思決定機関として事業協働機関の代表者等を委員とする「地域人材育成委員会」を設け、その下に審議・運営機関として「教育プログラム開発委員会」を設置した。 (2) COC+参加校として、鹿児島県と県内8大学の「雇用創出と若者定着に関する協定」を締結(平成27年12月14日)するとともに、COC+事業を推進するための「学卒者定着促進協議会」に出席するとともに、「食と観光で世界を魅了する『かごしま』の地元定着促進プログラム」のキックオフシンポジウム(平成28年3月7日)を共催した。 (3) 平成27年12月21日に第1回「地域人材育成委員会」および「教育プログラム開発委員会」を合同で開催した。「地域人材育成委員会」で決定した教育方針に沿って教育プログラムを開発することなど取組みの内容が合同委員会にて承認され、地域が求める人材の育成、学卒者の地元就職率の向上に向けた事業推進のための組織体制が構築・整備された。 (4) 平成28年2月26日に第2回「教育プログラム開発委員会」を開催し、①平成28年度COC教育プログラム、②平成28年度COC事業計画、の原案が承認され、平成28年度事業推進に向けた準備が整った。 (5) その他 ① 地域課題の解決に必要な能力を獲得するための「地域人材育成プログラム」、また、地域の国際化に対応するための「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」のシラバスや履修要項等を作成し、学生が混乱なく履修できるよう対策を講じた。 ② 本プログラムを修了した学生に対して発行する修了証が地域での就職に役立つように、認知度の向上に努めた。 (課題) (1) 学部学科間で地域志向の人材育成に対し温度差がある。 (2) フィールドワークやインターンシップに参加する学生が限定される。 (3) 事業協働機関と学生のマッチングに問題のあるケースも見られる。 (4) 今後新たに連携協定締結を予定する機関等の本事業における位置づけをどうするか今後検討が必要である。				
評点	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2. あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
理由	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価 本学は、COC+に参加すると同時に、地方創生を一層推進するための全学的なカリキュラム改革を提出して、鹿児島国際大学に続いて県内では二校目となる「地(知)の拠点(COC)大学」に認定されたことは評価に値する。 本事業の初年度として、11月1日スタートしたCOC事業であるが、推進体制の確立、28年度から実施の教育プログラムの策定など、本格的な事業の始動に向けた活動が行われ、一応の成果を上げた。				

【外部評価委員会評価】

評点	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2. あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
理由	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価 <<宮廻南允委員長>> 連携事務を担う「COC推進室」の新設、「地域人材育成委員会」における教育方針の決定、方針に沿った「教育プログラム開発委員会」での教育プログラム開発の承認、さらには28年度の教育プログラムや事業計画の原案承認など、COC事業推進のための組織体制が短期間に構築・設備されたことは評価に値する。 今後のCOC事業の展開についていえば、育成すべき人材について人間像を明確にすること、さらに開発した教育プログラムを確実に実践することが重要となるであろう。 と、外部評価委員会へ出席する際、学生総合支援センターの掲示板で、「合同企業説明会(約100社参加予定)」「学長の就職活動講話」「面接対策講習会」「公務員試験及び教員試験の模擬試験」など、手厚い就業支援が実施されているのを確認した。COC事業の推進に当たっては、これまでの就業支援の実績を生かすべく学生総合支援センターとの密接な連携も必要であろう。				

鹿児島国際大学 事業評価シート②(取組項目別)

【自己評価】

【平成27年度】

1. 取組項目	「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」による各種事業の推進				
2. 取組内容	(1) 事業協働機関と連携した地域課題の解決に向けた取組 (2) COC事業に係るシンポジウムの開催 (3) 海外インターンシップ開拓調査の実施				
3. 成果と課題	取組内容を踏まえ、該当年度の成果と次年度への展望(課題・改善策等)を記入 (成果) (1) 平成27年11月18日、西之表市と本学との包括連携に関する協定を締結するとともに、西之表市・鹿児島相互信用金庫・本学の3者により「西之表市地域活性化共同事業に関する覚書」を締結し、西之表市の地域活性化に取り組むこととなった。 まずは、最初の取組みとして、3月10日～13日の日程で、種子島・留学生モニターツアーを実施した。中国・台湾からの留学生13名が種子島の魅力に触れ、種子島の観光振興に関する課題等への提言を行うこととなった。 (2) 平成28年2月20日、南大隅町と本学との包括連携に関する協定が締結された。同日、南大隅町共同プロジェクト報告会・シンポジウムとして、本学の地域総合研究所が取り組んできている6つのテーマについて、報告およびディスカッションが活発に行われ、南大隅町の本学に寄せる期待の大きさが感じられた。 なお、今後の協定締結予定として3月下旬から4月初旬にかけて「鹿児島商工会議所」との協定締結、さらに平成28年4月以降は「日置市」、「垂水市」などとの協定締結が計画されている。 協定締結後の課題として、締結先との取組みを更なるものにする事が求められる。また、取組に係る活動を全学的なものに拡大していく必要がある。 (3) 平成28年2月4日、「地方創生と地域活性化」をテーマに、COCシンポジウムを開催した。元佐賀県武雄市長の樋渡啓祐氏による基調講演に続き、西平良将阿久根市長、事業協働機関から鹿児島相互信用金庫の本田賢一氏、本学教授の菊地裕幸氏をパネラーに、大久保幸夫副学長・産学官地域連携センター長がコーディネーターとなりパネルディスカッションが開催された。(参加者280名) (4) 平成28年3月2日、「大隅の地域振興と地域福祉」をテーマに、鹿屋市においてシンポジウムを開催した。第一部の基調講演は、「鹿児島国際大学による地方創生推進事業について」と題し、大久保幸夫副学長・産学官地域連携センター長が、本学が推進するCOC事業について講演した。 (5) 平成27年12月3日～6日にかけて、事業協働機関の鹿児島相互信用金庫が主催する香港視察団に本学から4名の留学生が通訳として同行、本学職員も4名同行し、海外インターンシップ開拓調査、大学間交流調査を行った。また、平成28年3月10日には香港鹿児島倶楽部の溝口会長と本学学長が面談、香港への学生のインターンシップに理解をいただくとともに、3月13日～16日の日程で、教職員4名が香港でのインターンシップ先の開拓調査を実施した。 (課題) (1) 地域課題解決のための研究やフィールドワークを行う教員が足りない。 (2) フィールドワークを実施するときの学生の旅費や指導教員の負担などコスト面で課題がある。 (3) 海外インターンシップ先香港の受入企業開拓が不十分であり、今後積極的に取り組む必要がある。 (4) 西之表市との連携による今後の取組み推進上、具体的担当教員が決まらないなどの課題も残されている。				
評点	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2. あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
理由	本学は、COC+に参加すると同時に、地方創生を一層推進するための全学的なカリキュラム改革を提出して、鹿児島大学に続いて県内では二校目となる「地(知)の拠点(COC)大学」に認定されたことは評価に値する。 本事業の初年度として、11月1日スタートしたCOC事業であるが、5か月間という短い期間において、事業協働機関との協定締結やシンポジウムの協働開催、留学生を活用した連携事業の実施など、一応の成果を挙げたが、全体としては次年度以降の取組が重要であると考えている。				

【外部評価委員会評価】

評点	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2. あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
理由	<<宮迫甫允委員長>> 西之表市及び南大隅町との包括連携協定が締結され、種子島・留学生モニターツアーや南大隅町共同プロジェクト報告会・シンポジウムなどが実施されている。しかし、事業協働機関との協定締結も、協定締結先との地域課題解決の取組みも、まだ始まったばかりである。 COC事業がスタートしたのは11月1日であり、実施体制の構築・整備が先行せざるを得ないこともあり、各種事業の推進には時間的制約が大きかったといえよう。自己評価にある「次年度以降の取組が重要である」という判断も妥当であろう。 今後の事業推進に当たっては、まず計画を立て、計画を実行に移す。つぎに計画(目標)と結果(実績)とを比較し、その差異を分析する。さらに差異が生じた原因を明らかにし、事業の推進を改善するのに役立つ。いわゆる「PDCA」をまわすということである。 自己評価も外部評価も、その目的は業務を批判的に見ることによって、業務の改善点を見つけ出し、業務の改善を図っていくにある。したがって、課題を指摘することは重要であるが、もっと大事なことは課題を解決する方法や方向を明らかにすることである。				





IV 資料

喜入旧麓地区景観形成重点地区指定取組

鹿児島市との連携協定にともなう喜入旧麓地区の景観保存活動

—第1回現地調査の概要—

国際文化学部国際文化学科・教授

太田 秀春

1. 実施日

平成27年(2015)6月14日(日)

2. 参加者

【大学】教員1名(太田)

ゼミ生22名(2年生11名、3年生8名、留学生2名、大学院生(TA)1名)

【鹿児島市】都市景観課 担当職員1名(禰占様)

【地区住民】公民館の管理の方3名

3. 調査概要

昨年度に締結された鹿児島市との連携協定に基づき、今後の活動の方向性やその可否を探るために現地を訪問し、現状の把握と地域資源の調査を実施。

当日は大雨警報発令中の雨天という悪条件ではあったが、鹿児島市都市景観課の禰占様にご同行いただき、現地に到着した時点で幸いにも一時的に雨が弱まり、公民館を管理されている地域の方と合流して、ご案内をいただく。喜入旧麓地区を歩きながら、周辺の歴史的遺産や自然景観を2時間ほど調査。午後には知覧の伝統建造物群保存地区を視察することを計画していたが、豪雨になったためにミュージアム知覧に変更し、武家屋敷の復元模型や展示を利用して説明。予定を切り上げて帰着。

上記の現地調査の結果、喜入旧麓地区には興味深い地域資源が多数存在していることを確認。学生たちにとっても、現地で鹿児島市や地域の方々との調査は、ゼミで得た知識やスキルを社会に還元したり活かしたりするうえで得るものが多く、有意義な学びに。

4. 連携事業の今後

喜入旧麓地区の地域資源については、その意義づけも含めてさらなる調査が必要。その上で、地域にどのようなアプローチをしていくか、鹿児島市と調整する必要あり。これについては、7月7日に第一回調査の概要を鹿児島市都市景観課と話し合い検討中。

また、今回の調査で浮き彫りとなった多くの課題点をどうするか。

5. 来年度以降の活動を継続していくための課題

① 学生の金銭的負担の問題

・今回の交通費は、産学官連携センターから全面的な援助あり。しかし、連携先の鹿児島市都市景観課では今年度は予算化しておらず、来年度も都市景観課での予算化は期待薄。調査は貸し切りバスでの移動が基本となり、1回の調査でも相当の費用が必要。

・調査は基本的に一日がかりになり昼食が必要。今回は学生負担で実施したが、調査のための必要経費に組み入れるのが妥当では。

② リスクの問題

・調査中の学生の事故や、器物損壊などのリスクに対する補償（学生部で加入している保険で対応できるのか）。今回は文化財など貴重なものに触れる活動であったため、課外活動用の一日保険に学生負担で加入したが、できれば大学や市で負担を。鹿児島県が実施している世界遺産PR活動では、参加学生の保険は県が負担。

・今回は雨天で、当日は朝方に発令された大雨警報の中で実施。昼食も団体で予約しており当日キャンセルは不可。バスや昼食をキャンセルした場合の負担の問題（現状では学生の負担に）。簡単に中止の判断すらできない、という事態を避けるための方策の必要性。

・一般的に校外での活動はリスクの問題がある。これらを解決する方策の整備。

③ 担当教員のインセンティブ

・これらの活動に対する大学内での位置づけ。実施している教員に対する評価の問題。見方によっては大学で授業をしている方がリスクもなく楽。実施のたびに担当教員の持ち出しが出ないような支援体制の実現を。

④ 鹿児島市との連携協定

・大枠はできているが、細部についてはさらに詰める必要性。

6. 調査風景



武家門と武家屋敷跡の調査



牧瀬家武家門と石塀（景観重要建造物）



在地技術で築かれた江戸時代の石垣調査



伝説の残る名勝地・香梅ヶ澗

第36回谷山ふるさと祭踊り連参加

谷山ふるさと祭 総踊りに多くの学生や教職員が参加

秋の初めのまぶしいほど晴れ上がった10月25日に『第36回谷山ふるさと祭』が行われ、その踊り連に本学学生と教職員合わせて約70人が参加しました。

参加者はそろいの緑の法被を身にまとい「IUK。IUK」と声を合わせながら、おはら節やハンヤ節を踊り、本通りを練り歩きました。その踊りの賑やかさから沿道にいる地域住民からは多くの声援をもらい、その楽しさに引き寄せられた地元の小学生が本学の踊りの列に加わる場面も見られました。

また、去年は降雨のため踊ることのできなかつた「恋するフォーチュンクッキー」を全ての踊り連参加団体のみんなで動きを合わせて、優雅に愉快地踊りあげ心地よいひと時を過ごしました。参加した学生らは「地域の祭りに参加できて嬉しい。来年も参加したい」と話していました。



第30回国民文化祭・かごしま2015

国民文化祭「現代劇の祭典」ボランティアに関する報告

日 時 10月31日(土)、11月1日(日) 9:00~19:00

場 所 谷山サザンホール

参加者 10/31: ボランティア学生 8名、職員 4名

11/1: ボランティア学生 8名、職員 3名

※2日間の参加学生16名のうち両日参加2名の重複あり。

詳細は別紙、名簿参照

■参加学生について

10/30(前日)に体調不良により10/31に2名、11/1に2名のキャンセルがあったが、学生課 小林課長、清藤課長補佐のご協力により10/31に1名、参加学生の宮野さんの紹介により11/1に2名の追加ができた。

【当日の状況】

10/31⇒当日、体調不良2名、忌引き1名のキャンセルあり。結果8名の参加。

11/1 ⇒当日、体調不良にて5名のキャンセルあり。結果8名の参加。

■集客実績について

10/31⇒ 254人 (内訳: 大人 195人、小中高 59人)

11/1 ⇒ 530人 (内訳: 大人 462人、小中高 68人)

※2日間の合計数 784人

■概要

当初、学生ボランティア参加学生数については各日12名の予定であったが、前日や当日のキャンセルがみられたことから、今後は補欠要員の確保も必要と思われる。

幸い、他の部局(学生課)の協力や学生紹介の追加により大幅な減は無かったものの、やはり他部局との連携も密にしておく必要がある。

従事する学生については、全員よく頑張ってくれたので、主催者側の評価は良かった。なかでもサークルに所属している学生においては、自分の立場や先を見越した行動などスムーズにできる傾向がみられた。このことから、今後、学生ボランティアセンター(仮称)の設置にあたり、サークルと連動させサークル入会=ボランティア活動参加とし、参加したサークルにポイント加算の特典(ポイント数に伴う活動費援助)なども取り入れるとよいのではないかと思われる。



かごしま国民文化祭 開会式でウエルカムパフォーマーとして出演

10月31日（土），皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ，国内最大の文化の祭典「第30回国民文化祭・かごしま2015」の開幕を飾る「開会式・オープニングフェスティバル」が鹿児島アリーナで開催されました！！

そこに、国際文化学部教授のマクマレイ先生と国際文化学部の学生が、俳句を詠んだり歌を歌ったりするウエルカムパフォーマーとして参加してきました。およそ30分間のステージ出演でしたが、かわいいハロウィーンの衣装を着たりして500人以上の観衆や皇太子同妃殿下を前に、大いにステージを盛り上げてきました。



大和村地域振興事業

大和村フィールドワーク

期日：平成28年2月5日（金）～7日（日）⇒ 2泊3日

（船舶での移動を含めると2月4日（木）～2月8日（月）⇒ 4泊5日）

参加者：介護福祉コース3年生+岩崎ゼミ（演習Ⅱ：3年生）

（学生氏名：男子学生7名+女子学生2名=学生9名）

引率者：岩崎

計10名

目的：奄美大島大和村の地域の方々との交流およびフィールドワークをとおして、

1. 島の伝統的な生活文化や独居高齢者の方々の生活の状況を知る。
2. 地域の特性を活かした地域づくりの実際を学ぶ。
3. 若者の目線で、地域の資源の発見や課題の抽出、その解決策（地域資源の活用など）の検討に取り組む。
4. 上記1.～3.をとおして、社会福祉専門職として地域社会で活躍できる実践能力を養う。

行 程

<1日目：2月4日（木）>

16:30 集合（鹿児島中央駅東口（桜島側）アミュプラザ前5番バスのりば）

16:45 バス乗車（鹿児島新港ポートライナー：鹿児島中央駅 → 鹿児島新港）

17:05 鹿児島新港下車

18:00 フェリー出港（鹿児島新港 → 名瀬港へ） ●マリックスライン「フェリーあけぼの」船内泊

<2日目：2月5日（金）>

5:00 フェリー着港（名瀬港）

5:20 ジョイフル奄美長浜店（朝食・時間調整）

8:30 バス乗車（中央病院前→大和村役場）

9:07 大和村役場前下車

9:10 大和村役場へ挨拶

10:45～ ①大和村立大和中学校の生徒との交流（2時間程度、交流・ディスカッション）

14:00～ ②大和の園の高齢者の方々との交流・職員の方々との意見交換会

夜～ 宿泊先で、聞き取りと中学生とのディスカッションのまとめ

●奄美フォレストポリス（大和村）泊

<3日目：2月6日（土）>

10:00～ ③集落の独居高齢者の方々との交流（交流・聞き取り）

14:00～ ④集落の支え合いグループの方々との交流（交流・聞き取り）

夜～ 宿泊先で、聞き取りのまとめ

●奄美フォレストポリス（大和村）泊

<4日目：2月7日（日）>

10:00～ ⑤役場職員の方々との意見交換会：大和村役場第1会議室（2時間程度）

13:00～ 大和まほろば館 → 大和村役場 → 名瀬港

時間調整（名瀬港周辺・奄美市内周辺）

21:20 フェリー発（名瀬港 → 鹿児島新港へ） ●マルエーフェリー「クイーンコーラルプラス」船内泊

<5日目：2月8日（月）>

8:30 フェリー着港（鹿児島新港）

8:40 バス乗車（鹿児島新港ポートライナー：鹿児島新港 → 鹿児島中央駅）

8:50 鹿児島中央駅下車 ～解散～

*上記企画（①～⑤）について、報告書を作成し、後日、大和村へ提出する。

フィールドワークの内容

①2月5日（金）10:45～

<中学生との交流：2時間程度>

- ①中学生 13名
- ②ディスカッションまたはKJ法
 - ・大和村のいいところ
 - ・大和村の不便なところ
 - ・島（大和村）に残る、または島（大和村）に戻ってくるためには、島（大和村）に何が必要だと思うか
 - ・残っていたい島（大和村）、戻って来たい島（大和村）になるために、自分たち若者ができることはないか。
 - ・どんな島（大和村）になって欲しいか。理想の島（大和村）。

②2月5日（金）14:00～

<特別養護老人ホーム大和の園の方々との交流：2時間程度>

- ①自己紹介
- ②おはら節の披露
- ③入所者の方々とのコミュニケーション
- ④職員の方との意見交換
 - ・限られた医療・介護資源のなかで、苦勞されている点
 - ・限られた医療・介護資源のなかでの利点
 - ・人材確保について
 - ・台風や豪雨、津波等における防災について
 - ・地域におけるこれからの施設のあり方・役割について

③2月6日（土）10:00～

<集落の独居高齢者の方との交流：1～2時間程度>

- ①高齢者の方の選定：3～4名程度
 - ②聞き取り内容
 - ・生活の状況（昔・現在）
 - ・昔の集落について
 - ・お祭りや風習について
 - ・日々の楽しみについて
 - ・不安なことについて
 - ・どんな大和村（集落）になって欲しいか
 - ・若者に期待すること
- *時間があれば、八月踊りを教えてほしい

④2月6日（土）14:00～

<集落の支え合いグループの方との交流：2時間程度>

- ①集落・聞き取り対象者の選定：1カ所または2カ所 ・1～2名
 - ②聞き取り内容
 - ・地域における支え合い活動までの経緯
 - ・地域づくり活動内容について
 - ・活動の効果について
 - ・活動をして良かったこと、苦勞していること
 - ・活動における今後の課題について
- *時間があれば、八月踊りを教えてほしい

⑤2月7日（日）10:00～

場所：大和村役場第1会議室）

<役場職員の方々との意見交換会：2時間程度>

- ①大和村や集落の方々の印象
- ②集落の方々との交流をとおして学んだこと
- ③若者の視点で、村の活性化についての意見交換

「大和村フィールドワーク」で地域づくりを学びました。
 大和村が全国に先駆けて行っている地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを学ぶために企画しました。2泊3日（2月5日～7日）の行程で、村内の子どもや高齢者、地域住民との交流を通して、地域の特性を活かした地域づくりの実際を学ぶほか、若者の目線で村の資源発掘や提言などを行いました。

1日目の午前は、大和中学校で中学3年の生徒たちとともに「村のいいところ」「不便なところ」「必要なもの」「今、自分にできること」などを考えました。また午後からは、大和村立特別養護老人ホーム大和の園で入所者の方々と一緒に「おはら節」「恋するフォーチュンクッキー」を踊りました。その後、施設職員と情報交換を行い、限られた医療・福祉資源における施設の工夫やこれからの取り組みについて学びました。

2日目は、国直集落の独居高齢者の方々から生活の状況の聞き取りを行い、地域における互助機能の大切さについて学びました。また、名音集落では、地域支え合い活動“ティダの会”の高齢者の皆さんと島唄に合わせて、八月踊りをみんなで踊り交流を図りました。

3日目は、大和村村長をはじめ職員の方々と意見交換を行い、若者目線での提言を行いました。最後に村の特産物のすももを使った“すももソフトクリーム”をご馳走になりました。



大和中学校3年生との交流



大和中学校3年生 KJ法を行う



特養「大和の園」の入所者の皆さんと
 “恋するフォーチュンクッキー”を踊る



地域支え合い活動“ティダの会”で高齢者の方に八月踊りを教わる



大和村特産の“すももソフトクリーム”



大和村役場職員の方々との意見交換会

ふるさと水土里の探検隊

ふるさと水土里の探検隊（八幡・諏訪地区）

産学官地域連携センター長 大久保 幸夫

本事業は、鹿児島県（農政部農村振興課）との連携事業で、地域住民と本学学生が共同で集落点検やワークショップ、住民アンケート調査を行い、大学生による地域づくりの提案等を踏まえ、地域課題の整理や保全活動計画を作成し、地域住民活動の活性化を図ることを目的としている。平成21年度から毎年地域を変えて実施している。今年度は、経済学部経済学科の菊地ゼミ2年生9名と菊地教授、大久保が参加して、日置市日吉町川東（八幡・諏訪）地区で行われた。なお、本事業推進のために鹿児島県と本学は、平成27年12月3日に連携協定を結んでいる。

打合せ：平成27年10月28日、探検隊の実施にあたり、地区、県、大学が連携して進めていくための今後の方針について協議した。（八幡地区集会施設）

第1回目：平成27年12月5日（土）に総勢80名余りが集まり、4コースに分かれて集落点検を行った。その後、地域の現状や課題などの意見を出し合い、集落点検マップを作成した。

第2回目：平成28年1月30日（土）、第1回目で作成した点検マップを再確認しながら、地域の良いところを活かしつつ地域の課題を解決するにはどのようにすればよいかについて話し合い、アイデアを出し合った。（八幡地区集会施設）

第3回目：平成28年3月18日（金）、第2回目の話し合い結果をもとに、本学が行ったアンケート調査結果の報告と学生たちからの地域活性化策の提案を踏まえ、八幡・諏訪地区の活性化に向けた将来像や具体的な活動計画について話し合った。学生たちと教員は、この提案のために3回学内で話し合いを行った。

学生たちにとって、知らない地域に入って調査（フィールドワーク）を行うのは初めてのこともあり新鮮であったようだ。KJ法のようなデータのまとめ方やファシリテーション等フィールドワークの方法について勉強する機会にもなったと思われる。また、若いひとが少ない地域で、大学生との交流や意見交換、地域活性化提案は、住民の皆さんに歓迎されていた。次年度も、入門的なフィールドワークとして継続していきたい。





八幡・諏訪地区 活性化プロジェクト

鹿児島国際大学
菊地ゼミナール

1



八幡・諏訪地区の課題

- 車がないと、買い物、移動などが不便
- 少子高齢化、人口減少などで寂しくなってきた
- 祭りなどの行事の担い手や、農業などの後継者が不足してきている
- 耕作放棄地が多い
- 空き家も多い
- 流動人口は比較的多い(スポーツ大会など)

2

静かさを維持？活気ある地域に？

- アンケート調査によると・・・
- 静かさ、穏やかさは維持したい
- 一方で、少子高齢化、人口減少、行事の継承などを考えると、若い人を中心に移住者が増えてほしい
- また、魅力的な地域資源を整備・PRして、訪問者をもっと増やしたい

4



- 住みやすい快適な環境と、人が増えて活気あるまちづくりを両立させていくにはどうすればよいのか？
- まずは、地区内の人や地区外からの訪問者と交流できる場をつくり、八幡・諏訪地区についてもっと知ってもらうことが大事ではないか！？
- そこで・・・

5

提案1－土日限定の物産館の開設

- 場所は、体育館や駐車場などで
- 地域で作られた米や農作物を販売
- 空き家の整備・紹介
- 八幡・諏訪地区(日吉町)の歴史展示
- 地域行事のお知らせ
- お茶スペース(サロン)を作り、地域の人同士やそれ以外の人の交流の場とする
- 収益の一部で神社の修繕等を行う

6

提案2－祭りや行事のさらなる活性化

- セっぺとべ特別枠をつくる
- 地区外の子どものチームを作り踊ってもらう。それによって、セっぺとべのことをさらに知ってもらい、次世代に受け継いでいってもらう
- セっぺとべなどの行事に合わせて、スポーツ大会を開催する(妙円寺詣りのように)
- 特産品販売や花火大会、農業体験、手打ちそば作り体験などと組み合わせる
- 事前にマスコミを活用して効果的なPRを行う

8

提案3－企業の新入社員研修の誘致

- 新入社員研修をせっぺとべ館等で行うことを企業に打診し、研修の一環として、地域の魅力発見・創造のために、市や住民の方々と議論などをしながら、1つのものを作り上げていく

10

おわりに

- 今まで日吉町八幡・諏訪地区のことはほとんど知りませんでしたが、貴重な伝統行事や歴史・文化遺産、のどかな自然・景観など、たくさんの魅力的な資源があることがわかりました。
- このような貴重な機会を与えてくださった地域の皆さん、鹿児島県庁の皆さんに心よりお礼申し上げます。

11

2016年

3月12日(土)

10:00 ▶ 16:00

場所 阿久根駅
(にぎわい交流館 阿久根駅)

イベント盛りだくさん!

イベント①

認定こども園 阿久根園
園児による マーチング演奏

イベント②

阿久根 中学校
生徒による 吹奏楽演奏

イベント③

阿久根 小学校
児童による 合唱

イベント④

鹿児島国際大学
学生による よさこい

主催 鹿児島国際大学

後援 阿久根市

肥薩おれんじ鉄道株式会社

協力 認定こども園 阿久根園

阿久根中学校

阿久根小学校

肥薩おれんじ鉄道応援!!!

「そうりん軽トラ市」も開催予定

北薩・熊本のうまかもん集めました!!

沿線うまかもんフェア

うまかもん大集合!!

うまかもん①

◎北薩・熊本のおいしい銘菓の数々!

鹿児島国際大学の学生が集めました!



うまかもん②

◎特製弁当 数量限定

- ・おれんじ鉄道で料理を提供!
- ・「農園レストラン 三蔵」の弁当
- ・全国馬車弁大会で数々の賞を受賞!
- ・「松榮軒」のくまもとあか牛ランチボックス
- ・新鮮なお魚いっしょ!
- ・「太郎寿司」の弁当
- ・肉のうまみが口中に広がる!
- ・「焼肉ひこさん」の弁当



お問い合わせ

鹿児島国際大学
産学官連携センター
(御9)鹿児島市坂上
8-34-1

TEL: 099-263-0686

FAX: 099-261-3536

「肥薩おれんじ鉄道応援！沿線うんまかもんフェア in 阿久根駅」

開催について

1. 日時 : 平成28年3月12日(土) 10:00~16:00
2. 場所 : 阿久根駅(にぎわい交流館阿久根駅)
3. 主催 : 鹿児島国際大学
協力 : 阿久根市、鹿児島相互信用金庫、認定こども園あくね園、阿久根小学校、阿久根中学校
後援 : 肥薩おれんじ鉄道株式会社、鹿児島県肥薩おれんじ鉄道利用促進協議会(内諾)

4. プログラム(予定)

- 9:30 弁当整理券配付(三蔵特製弁当、くまもとあか牛ランチBOX、ほんたんチラシ、モーウに弁当)
- 9:50 阿久根中学校吹奏楽部によるオープニング演奏
- 10:00 オープン(菓子等販売開始)
- 10:30 阿久根中学校吹奏楽部による演奏
- 10:45 弁当販売開始(整理券持参者優先)
- 11:23 おれんじカフェ到着
認定こども園あくね園園児によるマーチング演奏(11:25頃、駅前広場で)
- 11:46 おれんじカフェ発車
みんなでお見送り
- 12:00 阿っくんと鹿児島国際大学よさこい創生児による踊り披露
- 13:00 阿久根小学校合唱部による合唱
- 16:00 終了

5. 販売商品等(予定)

<スイーツ(銘菓)>

- 阿久根 …オムレットケーキ(日嗣屋)、さざえ最中(三春堂)、山田楽(菓子工房いしはら)、いちご大福(きくや)
- 薩摩川内…じゃっせん(篤屋)、おやじのマドレーヌ(ルプレジール)
- 長 島 …赤まき(坂之下製菓)
- 出 水 …チーズまん笑顔(菓匠たなか)、いずみいもクッキー、南国しぼり、なっちゃん(以上、パースデイ)
- 水 俣 …かりんとう万十、甘夏かすた一ど(以上、鬼塚日昭堂)、くまもとのお米、くまもん最中、レモンケーキ(以上、とくとみ製菓)

八代 …彦一もなか、晩白柚ゼリー、トマトジュレ（以上、お菓子の彦一本舗）

<弁当、パン、その他>

阿久根 …ぼんたんちらし（太郎寿司）、モ一うに弁当（焼肉ひこさん）、原木しいたけ、えのき茸、味茸（以上、三笠えのき茸生産組合）、つけあげ、あおさのり、ひじき、塩うに（以上、稲美丸水産）

長島 …特製食パン（坂之下製菓）

出水 …特製弁当（農園レストラン三蔵）、くまもとあか牛ランチBOX（松栄軒）、

お問い合わせ

鹿児島国際大学経済学部・地域経済ゼミナール

〒891-0197 鹿児島市坂之上 8-34-1

教授 菊地裕幸（TEL 090-1144-1152）

学生代表 飛松海輝（TEL 090-8410-3360）

インターンシップ成果報告会

鹿児島相互信用金庫・鹿児島国際大学 産学連携事業
「3日間社長のカバン持ち体験」学生報告会 実施結果

開催日時 平成 28 年 1 月 18 日 (月) 18:00~20:30

開催場所 鹿児島サンロイヤルホテル

【学生報告会】エトワール (1 階)

17:00 受付開始

18:00 開会

- ・鹿児島相互信用金庫 挨拶 賦句 辰治専務理事
- ・鹿児島国際大学 挨拶 津曲 貞利学長

18:15 学生発表

- ・谷口 政成 (タニグチ マサナリ) 鹿児島国際観光株式会社
- ・東泊 彩華 (ヒガシドマリ アヤカ) 株式会社まからず屋
- ・牧迫 千晴 (マキサコ チハル) 日置市役所
- ・中崎 隼人 (ナカザキ ハヤト) 三和建設株式会社
- ・藤 亜莉沙 (フジ アリサ) 株式会社フジヤマ

受入企業からの意見・感想

- ・三和建設株式会社 前田社長
- ・日置市役所 総務企画部企画課 小園係長
- ・鹿児島国際観光株式会社 総務部 仮屋係長

留学生発表 (そうしんブレーン 21 香港 TOBO 会に通訳として参加)

- ・姜 昊 (ジャン ハオ)

【懇親会】高限の間 (2 階)

19:10 挨拶・乾杯

- ・司法書士法人 リーガルフラッグ 桑鶴 浩二代表社員

19:15 懇親会

20:25 お礼のことば (学生全員登壇)

- ・学生代表 岡留 大聖 (オカドメ タイセイ)

20:30 締め

- ・鹿児島国際大学 大久保幸夫副学長

【当日の出席者数】

	報告会	懇親会
受入企業	14名	13名
鹿児島国際大学学生	23名	22名
鹿児島国際大学関係者	11名	10名
鹿児島相互信用金庫関係者	21名	22名
合計	69名	67名

和気あいあいとした雰囲気の中で中学生と交流した鹿国大の学生ら
 15日 大和中学校



大和村で地域づくり学ぶ

鹿国大ファイールドワーク

大和村と保福・福祉分野をメインに人材育成を幅広い分野で連携協定を結ぶ鹿国大と大和村の学生らが5日、泊り3日のフィールドワークのため、同村入りした。地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを調査する。村内の子どもやお年寄り、集落民などの交流を通して、地域の特性を生かした地域づくりの実践を学ぶほか、若者目線で村の魅力や課題を抽出し、地域資源の活用方法を村に提案する。

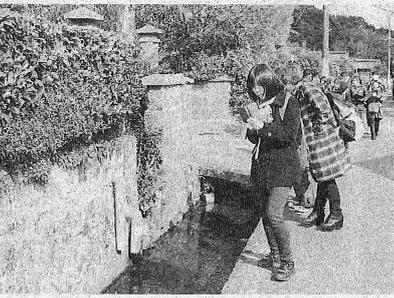
若者の視点生かし

鹿国大の学生が同ム「大和町」でお年寄りや子育て世代と交流する。6日は一人暮らしの若者が、大和町で暮らすお年寄りや子育て世代と交流し、地域課題を抽出し、活用方法を村に提案する。同大の学生は、大和町で暮らすお年寄りや子育て世代と交流し、地域課題を抽出し、活用方法を村に提案する。

南日本新聞 2016(平成28)年2月6日

喜入旧麓の魅力探る

鹿国大生 景観資源を調査



武家屋敷跡を歩き、魅力を探る学生たち
 鹿国大生 喜入旧麓

鹿国大と包括連携協定を結ぶ鹿国大と大和村の学生らが5日、泊り3日のフィールドワークのため、同村入りした。地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを調査する。村内の子どもやお年寄り、集落民などの交流を通して、地域の特性を生かした地域づくりの実践を学ぶほか、若者目線で村の魅力や課題を抽出し、地域資源の活用方法を村に提案する。

や南方神社、紅梅ヶ淵などを巡って歴史的背景などを調べ、写真を撮った。初めて訪れたという1年生の草野志帆さん(19)は「自然がきれいで、いい意味で手が加えられていない。車を止めるところがあつちもつと入が来ると話した。大和町は狭い範囲にこれだけの史跡が集中しているのは珍しい。武士の町がどう形成されたのかを知ることができ、鹿国大の価値がわかる」と評価した。

南日本新聞 2016(平成28)年3月6日

中台の観光客増やせ

西之表市、鹿国大と連携

留学生対象モニターツアー



島の伝統行事の再現に見入る留学生
 西之表市の月窓亭

留学生のモニターツアーが狙い。一行は島内各所めぐり、地元の住民との交流、民俗など幅広く体験した。中国・黒龍江省出身の侯雨晴さん(25)は「鉄砲船や浦田海水浴場のきれいな景観が印象に残った」と、観光客増やせの重要性を訴えた。観光関係者との意見交換会では、島内の交通アクセス改善の必要性、コンビニや居酒屋の営業している飲食店の少なさを指摘する声も聞かれた。経済観光課の松元和博氏は「来年度も何度か実施する。意見を反映し具体的な対策を取りたい」と話した。

南日本新聞 2016(平成28)年3月23日

観光、福祉などで連携

南大隅町と鹿国大が協定

南大隅町と鹿国大が協定を結ぶのは初めて。鹿国大の地域総合研究は、014年度から、南大隅町の委託を受けて地域づくりをテーマに町を研究してきた。協定の締結で関係性をさらに深め、効果的な施策を打ち出したいと期待する。調印式は町役場であり、森田俊彦町長と津曲貞利学長が協定書に署名した。

南大隅町 鹿国大 包括連携に関する協定調印式



津曲 協定書にサインする津曲貞利鹿国大学長(左)と森田俊彦町長(右)と森田俊彦町長
 南大隅町役場

中台にあった伝統行事「御崎祭り」にも参加した。森田町長は「高橋が進む町に若者の知識と力を注いでほしい。県内で先駆的な地域づくりができればと期待する。津曲学長は、町には観光資源となる景観と、畜産を中心とした農業という高い潜在能力があるとして、地域に貢献するため協定を結ぶ」と意気込みを語った。(大河平寛)

南日本新聞 2016(平成28)年2月26日

委員名簿・事務局

◎地域人材育成委員会・委員名簿

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

氏名	所属・職名
津曲 貞利	鹿児島国際大学 学長
大久保 幸夫	鹿児島国際大学 副学長・産学官地域連携センター長
飯田 敏博	鹿児島国際大学 副学長・学生総合支援センター長
岡田 和憲	鹿児島国際大学 事務局長
福島 誠治	鹿児島大学学長補佐・産学官連携推進センター長
松木園 富雄	鹿児島市 副市長
寺地 正吉	阿久根市 副市長
坂元 茂昭	西之表市 副市長
伊集院 幼	大島郡大和村 村長
白川 順二	南大隅町 副町長
内 道雄	かごしま市商工会 会長
稲葉 直寿	鹿児島相互信用金庫 理事長
満田 學	鹿児島興業信用組合 理事長

◎教育プログラム開発委員会・委員名簿

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

氏名	所属・職名
大久保 幸夫	鹿児島国際大学 副学長・産学官地域連携センター長
飯田 敏博	鹿児島国際大学 副学長・学生総合支援センター長
岡田 和憲	鹿児島国際大学 事務局長
小林 潤司	鹿児島国際大学 教務部長
飯田 伸二	鹿児島国際大学 研究教育開発センター長
高橋 信行	鹿児島国際大学 地域総合研究所長
菊地 裕幸	鹿児島国際大学 経済学部教授
太田 秀春	鹿児島国際大学 国際文化学部教授
岩崎 房子	鹿児島国際大学 鹿児島国際大学福祉社会学部准教授
池田 哲也	鹿児島市 政策企画課長
山元 正彦	阿久根市 企画調整課長
松元 明和	西之表市 経済観光課長
郁島 武正	大島郡大和村 総務企画課長
石畑 博	南大隅町 総務課長
武田 清孝	かごしま市商工会 広域担当経営指導員
梶原 隆夫	鹿児島相互信用金庫 理事・営業開発部長
鮫島 俊三	鹿児島興業信用組合 理事・総務部長

(事務局)

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

氏名	所属・職名
迫田 耕一	産学官地域連携センター次長
関 博信	産学官地域連携センター COC 推進室参事
和田 由紀乃	地域総合研究所 係長
北山 政信	産学官地域連携センター
海江田乃扶子	産学官地域連携センター書記
上治 麻美	産学官地域連携センター事務補助員